

**平成 23 年度  
広域地方計画の点検資料収集業務  
報告書**

**平成 24 年 3 月**

## 目 次

1. 業務概要	1
1.1 業務目的	1
1.2 業務概要	1
1.3 業務フロー	1
2. 外国人の情報伝達調査	2
2.1 避難計画の入手とヒアリング	2
2.2 外国人アンケート	11
2.3 コミュニティーの情報伝達調査	44
2.4 とりまとめ	51
資料編	

## 1. 業務概要

### 1.1. 業務目的

本業務は、各地で発生している災害に対して、在住外国人（ポルトガル語話者）への避難計画の周知方法や周知不足項目の調査を行い、よりよい避難計画策定の情報とすると共に、中部圏広域地方計画の内容の点検を行うための資料収集を行うものである。

### 1.2. 業務概要

業務名称：広域地方計画の点検資料収集業務

請負金額：¥2,625,000－（内消費税 ¥125,000－）

工 期：平成 24 年 1 月 24 日～平成 24 年 3 月 23 日

発 注 者：国土交通省 中部地方整備局

建政部 計画管理課

受 注 者：株式会社 建設環境研究所

### 1.3. 業務フロー

本業務の業務フローを、図 1.1 に示す。

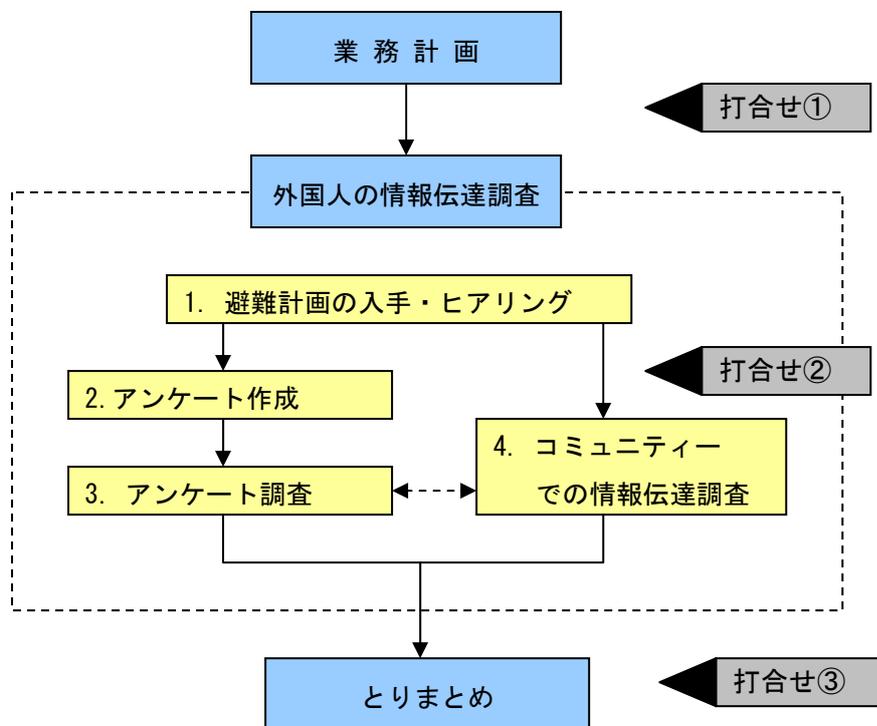


図 1.1 業務フロー

## 2. 外国人の情報伝達調査

自治体等で作成された避難計画が、在住外国人（ポルトガル語話者（以下「外国人」という。）に理解されているか、また計画への意見の有無、避難に不足している情報の有無等を調査し、それを基にしたアンケート調査を行う。また、外国人が多数居住する地域での情報伝達がいかになされているかを調査し、非常時の情報伝達方法の参考とする

### 2.1 避難計画の入手・ヒアリング

名古屋市周辺で外国人コミュニティのある自治体として表 2.1 に示すように豊橋市を選定し、ポルトガル語版避難計画（簡易版（パンフレット程度。）以下「避難計画」という。）を入手するとともに、当該自治体に対しヒアリングを実施した。

ヒアリング内容は図 2.1 のとおりである。

表 2.1 調査対象自治体の選定

自治体	居住者数	コミュニティ	選定
愛知県			
豊橋市	9,102	岩田団地、金田住宅に外国人コミュニティあり。 NPO法人ABT豊橋ブラジル協会が活動。	◎ 名古屋周辺で居住者数が最大であり、外国人コミュニティが確認されている。
豊田市	6,388	コミュニティあるが、市で実態が把握されていない	
名古屋市	5,016	コミュニティ不明	
岐阜県			
可児市	3,401	コミュニティ不明	
大垣市	3,115	同上	
美濃加茂市	2,786	〃	
三重県			
鈴鹿市	3,752	コミュニティ不明	
津市	3,044	同上	
四日市市	3,010	〃	

平成 22 年(2010 年) 12 月 31 日現在外国人登録者数 外国人登録国籍別市町村別人員調査

## 2. 1.1 豊橋市の外国人向け避難計画

### 1) 防災の手引き

防災の手引きは、防災に関する知識、情報を一冊にまとめた資料である。  
構成は下記のとおりであり、資料は巻末に格納した。

防災の手引きの内容構成
1.地震の知識
2.東海地震、東南海地震とは？
3.東海地震に関連する情報
4.液状化現象
5.津波に備えて
6.地震に備えて
7.住宅の耐震対策とチェックポイント
8.地震発生 そのとき
9.避難
10.避難所・避難場所
11.ライフライン
12.非常持ち出し品・備蓄品
13.風水害の知識
14.集中豪雨とは
15.家の内外の風水害対策
16.都市型水害とは
17.土砂災害とは
18.避難勧告等
19.竜巻に備えて
20.自主防災組織
21.防災コミュニティの推進
22.災害時要援護者
23.火災発生、そのとき
24.いざというときの応急手当
25.心肺蘇生法の手順
26.指定避難所
27.応急救護所
28.高齢者、障害者等緊急一時受入施設
29.防災拠点公園
30.広域避難場所
31.災害時用マンホールトイレ
32.飲料水兼用耐震性貯水槽
33.防災備蓄倉庫
34.水防倉庫
35.緊急情報伝達システム(市内一斉通報用防災無線)
36.災害用伝言ダイヤル利用方法
37.『豊橋ほっとメール』
38.豊橋市消防本部防災センター
39.緊急地震情報
参考 家族防災会議の開催を 家具の転倒防止対策 119番通報のかけかた

## 2)地震防災マップ

地震防災マップは、被害想定、避難所情報をマップに示した資料である。  
構成は下記のとおりであり、資料は巻末に格納した

地震防災マップの内容構成
地震被害予測調査
どの地震を想定調査したの？
調査の前提条件・主な被害予測結果の概要
東海地震による被害予測結果
東海・東南海地震連動による被害予測結果
被害予測の結果について・被害の軽減を目指して
津波浸水予測
東南海・南海地震に係る津波浸水予測
防災マップ
防災マップの活用
あなたの避難場所はどこですかー防災マップ区分図
防災マップ第1～第13ブロック
避難所等一覧

## 2.1.2 ヒアリング項目の検討

豊橋市へのヒアリング項目は当初、想定した基本項目に豊橋市の避難計画の内容を踏まえ、外国人コミュニティの状況や防災教育等の普及に関する項目を追加した。

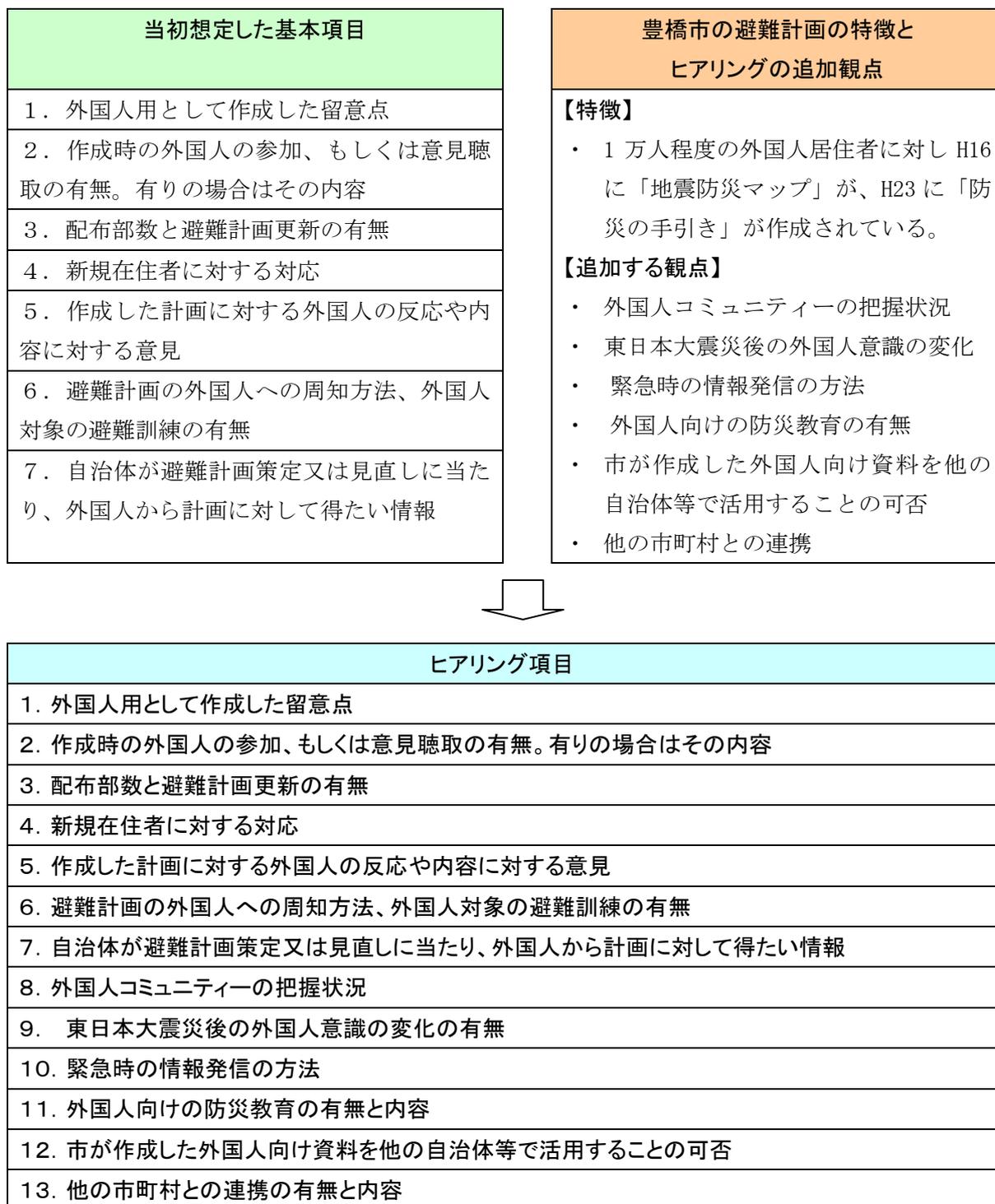


図 2.1 ヒアリング対象項目

### 2.1.3 ヒアリング調査結果

調査日時:2012年2月17日 13時30分～14時30分

場所:豊橋市総務部防災危機管理課会議室

調査対象:豊橋市文化市民部多文化共生・国際課

同 総務部防災危機管理課

調査員:株式会社建設環境研究所

ヒアリング結果は以下のとおりである。

#### 1. 外国人用として作成した留意点

##### 【留意点】

- ・ 日本人と同等の防災情報を提供するという公平性の確保に配慮し、日本語版の①防災のてびき、②地震防災マップを要約はせずに、ほぼ丸々翻訳した。
- ・ 翻訳には3、4ヶ月程度の期間を擁した。

##### 【防災のてびきの作成のねらい】

- ・ 災害時に、あらゆる場面で利用できる様々な情報を、一冊に網羅する。
- ・ コンパクトな冊子にまとめて、紐も付けて、例えば冷蔵庫の前に掛けていつでも利用できるようにした。

##### 【地震防災マップ作成のねらい】

- ・ 災害危険情報、避難情報の図化。

#### 2. 作成時の外国人の参加、もしくは意見聴取の有無。有りの場合はその内容

##### 【外国人の参加】

- ・ 外国人の協力有り。

##### 【参加内容】

- ・ 日系ブラジル人の多文化共生・国際課員と協力して翻訳した。課員の基本業務は相談員であり、来訪してきた外国人に対しての相談を行っている。その業務の合間を縫って翻訳作業を行った。

##### ・ 作成に苦勞した点

「警戒宣言」などの防災用語や、「地震の仕組み」などの翻訳。

地震の経験が少ない人が多いので、その恐ろしさが伝えることに苦勞した。しかし、東日本大震災では豊橋市も相当に揺れ、TVなどで被害状況が報道されたこともあって、今では地震は怖いという感覚を持たれたようだ。

### 3. 配布部数と避難計画更新の有無

- ・ H 24 年 1 月末現在でブラジル人 は 8,318 人、4,162 世帯が居住している。

#### 【防災のてびきの配布について】

H23 年度に作成した。多文化共生・国際課、じょうほうひろば、防災危機管理課、外国人向けイベント等で配布予定である。

#### 【地震防災マップについて】

H16 にポルトガル語版 6,000 部を作成して全戸配布し、転入者等には市民課での窓口配布を行った。H19 には 2,000 部を追加した。

### 4. 新規在住者に対する対応

- ・ 地震防災マップは転入者等に市民課窓口で配布している

### 5. 作成した計画に対する外国人の反応や内容に対する意見

- ・ 資料の内容、配布方法等に対する意見は特に聞いていない
- ・ 防災の手引きは配りはじめた段階である。
- ・ 日本語に照らし合わせて作った段階で、翻訳者の方の意見は聞いたが、その他の多くの外国の方の意見は聞く段階に至っていない。そのため、来年度はブラジル人学校に行き、意見交換をしながら外国人の感覚を取り入れて改訂を考えなければいけないと考えている。
- ・ 人にもよるだろうが、外国人の方々は情報として字が多いと見ないということをよく聞く。自治会の人からは回覧板を出来るだけシンプルにした方がよいという意見があがってくる。
- ・ 防災の手引きの厚さなら、絵が書いてある辺りだけ読むのかもしれない。

## 6. 避難計画の外国人への周知方法、外国人対象の避難訓練の有無

### 【避難計画の周知】

- ・ 避難情報の周知は新しい緊急情報伝達システムや、防災教室を通じて行うことになると思う。
- ・ 広報は自治会を通じてポルトガル語版を毎月 6,500 部配っているが、生活情報に特化しているので、広報を使つての避難計画の周知は考えていない。

#### ※ 緊急情報伝達システム

緊急情報をサイレンや音声で伝達するシステム。

避難に関する情報（避難準備情報、避難勧告、避難指示）等  
市内 62 箇所に設置。

### 【避難訓練】

- ・ 市では外国人を対象にした特別の避難訓練は行っていない。自治会や会社で日本人と一緒に行っていただいている。
- ・ 自治会での防災訓練の呼びかけに応じてくれる外国人は少ないときいている。

### 【豊橋ほっとメール】

- ・ 登録制の防災情報システムで、現在ポルトガル語と英語の提供を計画している。

#### ※ 豊橋ほっとメール

災害時や緊急時に携帯電話やパソコンで災害情報を入手できる日本語サービスを行っているが、現在、英語、ポルトガル語のサービスを計画している。

(ア)災害時緊急情報（市の災害対策本部が発信する地震、風水害情報。被害状況）

(イ)災害時緊急メール（登録者に対して上記情報をメールで知らせる）

(ウ)避難所情報（指定避難所の住所、電話番号、地図）

(エ)緊急医療機関情報

## 7. 自治体が避難計画策定又は見直しに当たり、外国人から計画に対して得たい情報

- ・ 外国人が災害時に困ると思われること
- ・ どのようなコミュニティーが存在するのか

## 8. 外国人コミュニティの把握状況

- ・ 岩田団地、金田住宅などの公営住宅に比較的多く居住している。
- ・ 自治会以外のコミュニティとして、サークルや教会の集まりがあるようだ。ブラジル協会があるが市では細かいコミュニティは把握しきれていないのが現状である。

## 9. 東日本大震災後の外国人意識の変化の有無

- ・ 地震に関する関心が高まり、折に触れて「豊橋で地震は起こるのか、安全なのか？」などの質問を受けることが増えた。

## 10. 緊急時の情報発信の方法

### 【避難勧告等の情報発信の課題】

- ・ 今どこで避難勧告が出ているというような情報は、翻訳の問題があるので即座に出すのがなかなか難しく、いますぐにというわけには行かない。
- ・ 緊急情報伝達システム、豊橋ほっとメール、HP等情報発信等の手段があっても、常時外国語の翻訳を行う能力がないと素早く正確な情報を発信することに役立たないことが課題である。
- ・ 災害時通訳ボランティアという制度があるが、その方々も被災すること大いに想定されるので期待どおりの効果を発揮することは難しい。ボランティアは、市内に住んでいる方で、ポルトガル語に限らず、言語限定せずに話せばという条件でことで約50人いる。豊橋市の国際交流協会に登録し、豊橋市がボランティアの派遣を協会に依頼するというシステムになっている。

### 11. 外国人向けの防災教育の有無

- ・ 防災の手引き等を読んでいただくことに加え、絵や耳を通して情報を提供することも重要だと考えている。日本人向けの防災講話を通訳の方を交えて、防災危機管理課と多文化共生・国際課の職員が連携して学校や、コミュニティの集まりで行いたいと考えている。
- ・ 内容は地震を知らない人に対する説明、豊橋が日本のどのような場所にあって、どの程度の被害が想定されているか、起こった際にどのように対応するかなどについて伝えたい。さらに、市の対策と、各自で利用できるツールを紹介できればと思っている。

### 12. 市が作成した外国人向け資料の対外的(他の自治体)での活用の可能性

- ・ 翻訳は正しいと思って訳しても、別の人がみるとニュアンスが違うという意見もできる。対外的に公表してハレーションを起こしたくない。豊橋市で外国人向けの翻訳資料を作成していることはPRしていただきたいが、翻訳したものを国のHPなどで活用していただくことは考えていない。

### 13. 他の市町村との連携の有無と内容

- ・ 豊橋市は外国人集住都市会議のメンバーになっている。28都市が加入し、そのメンバーでお互いに被災した時には翻訳協力することになっている。

#### ※外国人集住都市会議

外国人集住都市会議は、ニューカマーと呼ばれる南米日系人を中心とする外国人住民が多数居住する都市の行政並びに地域の国際交流協会等をもって構成し、外国人住民に係わる施策や活動状況に関する情報交換を行うなかで、地域で顕在化しつつある様々な問題の解決に積極的に取り組んでいくことを目的として2001年に設立された。

参加自治体は28自治体で、下記のとおりである。

【群馬県】 伊勢崎市、太田市、大泉町

【長野県】 上田市、飯田市

【岐阜県】 大垣市、美濃加茂市、可児市

【静岡県】 浜松市、富士市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、菊川市

【愛知県】 豊橋市、豊田市、小牧市、知立市

【三重県】 津市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市

【滋賀県】 長浜市、甲賀市、湖南市

【岡山县】 総社市

## 2.2 外国人アンケート

### 2.2.1 アンケート作成

豊橋市へのヒアリングで得た情報を基に、以下の内容を基本としたアンケートをポルトガル語で作成する。なおアンケート内容の詳細は、アンケートの実施に協力いただける豊橋市の意見を踏まえ、次のように検討した。

表 2.2 アンケート票作成方針

当初想定した基本項目	アンケート内容の検討方針	豊橋市の意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難計画の認知度</li> <li>・避難計画への理解度</li> </ul>	調査票Ⅱ問 1	市では避難方法や左記の項目を記載した「防災の手引き」「地震防災マップ」を作成し、市の窓口等で配布している。これらの資料の認知度、理解度を調査されることがよいと考えられる。公共交通の利用による通勤、通学は一般的ではない。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難先等の記載があるときは、場所の理解度</li> </ul>	〃 問 2	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時に自らがとる行動の理解度</li> </ul>	〃 問 3	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族等の安否確認方法</li> </ul>	〃 問 4	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・警戒宣言発令時の公共交通の動きへの理解度</li> </ul>	削除	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰宅困難時への対応理解度</li> </ul>	〃 問 2	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語による防災無線等の内容理解度</li> </ul>	市作成の防災用語理解調査票を活用する 調査票Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前に市で防災に関する用語理解の調査を行ったので、同じ調査票を用いてはどうか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・罹災建築物（危険物）への注意点の理解度</li> </ul>	削除	地震による建築物倒壊、津波のように家に戻る危険など状況が多様で説明が難しい。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における自家用車の処理方法</li> </ul>	削除	マイカーを多くの人を持っているわけではないので、調査票の対象としないほうがよい。
	調査票Ⅱ問 5	<b>(市からの要望)</b> 災害時に困ると思われることを聞いていただきたい

## アンケート調査票 I

## コノ言葉ワカリマスカ?

(①～③ノアテハマルトコロニ〇ヲ書イテクダサイ。)

## VOCÊ ENTENDE ESTAS PALAVRAS?

(Favor colocar um círculo no item de ①～③, de acordo a sua resposta)

分類 ジャンル	番号 番号	用語 用語	①	②	③
			ワカル	アマリ ワカラナイ	ワカラナイ
Tipos	Nº	Palavras	Entendo	Não entendo muito bem	Não entendo
地震 terremoto	1	magunichuudo    マグニチュード			
	2	shindo    震度			
	3	toukai jishin    東海地震			
	4	yoshin    余震			
	5	tsunami    津波			
	6	ekijouka    液状化			
	7	toukai jishin chosa jouhou    東海地震調査情報			
	8	toukai jishin chuui jouhou    東海地震注意情報			
	9	toukai jishin yochi jouhou    東海地震予知情報			
	10	keikai sengen    警戒宣言			
	11	saigaiyou dengon daiyaru    災害用伝言ダイヤル			
	12	taishin shindan    耐震診断			
	13	taishin hokyou    耐震補強			
	14	kagu no tentou boushi    家具の転倒防止			
	15	garasu hisan boushi    ガラス飛散防止			
	風水害 Danos devidos a ventos e chuvas	17	chuihou    注意報		
18		keihou    警報			
19		ooame    大雨			
20		kouzui    洪水			
21		boufuu    暴風			
22		taifuu    台風			
23		dosha saigai    土砂災害			
24		shuuchuu gouu    集中豪雨			
25		tatsumaki    竜巻			

## コノ言葉ワカリマスカ？

(①～③ノアテハマルトコロニ○ヲ書イテクダサイ。)

### VOCÊ ENTENDE ESTAS PALAVRAS?

(Favor colocar um círculo no item de ①～③, de acordo a sua resposta)

分類 分類	番号 番号	用語 用語		①	②	③
				ワカル	アマリ ワカラナイ	ワカラナイ
Tipos	Nº	Palavras		Entendo	Não entendo muito bem	Não entendo
カサイ 火災 Fogo	26	kasai (kaji)	火災 (火事)			
	27	shoki shouka	初期消火			
	28	shoukaki	消火器			
	29	juutakuyou kasai keihouki	住宅用火災警報器			
キウキウ 救急 Emergências	30	kyuukyuu	救急			
	31	kyuubyou	急病			
	32	koutsuu jiko	交通事故			
	33	AED	AED			
	34	shinpai soseihou	心肺蘇生法			
その他 Outros	35	bousai	防災			
	36	jishu bousai soshiki	自主防災組織			
	37	bousai kunren	防災訓練			
	38	hinan	避難			
	39	hinanjo	避難所			
	40	oukyuu kyugosho	応急救護所			
	41	hinan junbi jouhou	避難準備情報			
	42	hinan kankoku	避難勧告			
	43	hinan shiji	避難指示			
	44	bitiku hin	備蓄品			
	45	hijou mochidashi hin	非常持出品			
	46	Lifeline	ライフライン			
	47	shouboudan	消防団			
	48	shoubousho	消防署			
	49	kouban	交番			
	50	saigai taisaku honbu	災害対策本部			

分類	番号	用語	説明
	No.	Palavras	Explicação
地震	1	マグニチュード magunichuudo	地震ノエネルギーノ大キサ。値ガ1違ウトエネルギーハ約32倍違イマス。 Magnitude é a medida da grandeza da energia de um terremoto. Cada grau indica o aumento desta energia em 32 vezes.
	2	震度 shindo	ソレゾレノ場所ノ揺レノ強サ。0、1、2、3、4、5弱、6強、6弱、7ノ10段階アリマス。 É a medida da intensidade do tremor sísmico do local, dividido em 10 escalas: 0,1,2,3,4,5 fraco, 6 forte, 6 fraco, 6 forte e 7.
	3	東海地震 Toukai Jishin	駿河湾ヲ震源トスル地震で、東海地方ニ大キナ被害ヲ与エル地震デス。豊橋市ハ、震度6弱以上ノユレニナリマス。明日起コツテモ不思議デハナイ地震と言フレテマス。Terremoto previsto, com o epicentro na baía de Suruga, que causará enormes prejuízos na região de Tokai. Em Toyohashi, a intensidade sísmica será acima de 6 fraco. Não sendo de se surpreender se ocorrer hoje mesmo.
	4	余震 yoshin	大キナ地震ノアトニ、引キ続イテ起キル地震デス。最初ノ地震ヨリハハ小サイ地震デスガ、数日ニワタリ何回モ発生スルコトガアリマス。 São tremores de terremoto que ocorrem comumente após um grande terremoto. São em escala menor que o terremoto inicial, podendo continuar a ocorrer por vários dias.
	5	津波 tsunami	地震ニヨツテ海水ハ大キク動カサレ、波トナツテ遠クマデ伝ワリマス。コレヲ津波トイ、東海地震ガ起キルト、豊橋ノ太平洋沿岸デハ約20分デ6mノ津波ガ来ルト予想サレテマス。 São ondas provocadas pelos tremores de terremoto, quando as águas do mar sofrem um grande movimento, surgindo ondas que vão para longe. Caso ocorra o Terremoto de Tokai, prevê-se em aproximadamente 20 minutos, ondas de 6 metros atingirão a costa do litoral Pacífico de Toyohashi.
	6	液状化 ekijouka	地震ノ激シイ揺レニヨツテ、一時ノニ地面ガ液体ノウニナル現象デス。川ノ近クヤ埋立ラシタ場所ナド、モトモ地面ニ水分ガ多ク含マレル地域デ発生シマス。É um fenômeno que acontece quando ocorre tremores muito fortes, deixando temporaneamente a superfície da terra em estado de liquefação. Ocorre em áreas próximas a rios, aterros ou seja, em regiões cujo o solo contém muita água.
	7	東海地震弱測情報 toukai jishin kansoku jouhou	東海地震ノ観測データニ異常ガデイルガ、モウシバク様子ヲ見ナイト判断デキナイ場合ニ発表サレル情報デス。 É o informe que indica a constatação de anormalidades nos dados de observação sobre o terremoto de Tokai, porém havendo necessidade de mais tempo para qualquer julgamento sobre a situação.
	8	東海地震注意情報 toukai jishin chui jouhou	東海地震発生ノ可能性ガ高クナツタ段階デ発表サレル情報デス。 É o informe que indica que aumentou o grau de possibilidade de ocorrer o terremoto de Tokai.
	9	東海地震予知情報 toukai jishin yochi jouhou	東海地震ガ発生スルト判断サレタ場合ニ氣象庁ガ発表スル地震情報デス。 Informe que comunica a alta possibilidade de ocorrência do terremoto de Tokai, será divulgado pela Previsão do Tempo.
	10	警戒宣言 keikai sengen	東海地震予知情報ヲ受ケ内閣総理大臣ガ発令シマス。コノ警戒宣言ヲ受ケテ、市デハ、地震災害警戒本部ヲ設置シマス。 É um anúncio oficial sobre e iminência do Terremoto Tokai, feita pelo Primeiro Ministro do governo. Após o anúncio, a prefeitura deverá acionar a Central de Prevenção contra Danos de Terremoto.

分類	番号	用語	説明
	No.	Palavras	Explicação
地震 Terremoto	11	災害用伝言ダイヤル saigaiyou dengen daiyaru	大キナ災害ノ時ニ、電話ガ通ジニククナルタメ、自分ヤ家族ガ無事カドウカノ情報ヲ電話ヲ登録シタリ、確認シタリデキルサービスデス。電話番号ハ「171」デス。 É um tipo de serviço usado em situações de grandes calamidades, quando fica difícil qualquer contato telefônico, nestes casos, pode se gravar mensagem para comunicar aos familiares sobre sua situação. O número do telefone é「171」.
	12	耐震診断 taishin shindan	建築物ガ地震ノユレニ耐エレルカドウカヲハンダンスルコト。 É a avaliação de contruções para verificar se estão em condições de suportar tremores de terremoto.
	13	耐震補強 taishin hokyuu	地震ノユレニ耐エレルヨウニ、家ヲ又々ニスルコトデス。 É o reforço feito para que as casas possam suportar os tremores de um terremoto.
	14	家具の転倒防止 kagu no tentou	地震ノユレデ家具ガ倒レナイヨウニ、金具ナドヲ家具ヲ固定スルコトデス。 É a fixação dos móveis com suportes metálicos para evitar quedas em caso de terremoto.
	15	ガラス飛散防止 garasu hisan	地震ノユレデガラスガトビチライヨウニスルコトデス。通常ハフィルムヲハリマス。 É a prevenção para evitar a queda de estilhaços de vidros. Normalmente cola-se um filme sobre o vidro.
	16	緊急地震速報 kinikyuu jishin	地震ニヨル強イユレヲ事前ニシラセル情報デス。テレビヤラジオ等デシルコトガデキマス。 Informe que comunica antecipadamente a ocorrência de fortes tremores. É divulgado por televisão, rádio, etc.
	17	注意報 chuuuhou	災害ガ起キルオルガアル場合ニ気象庁ガダス情報デス。 Comunicado que informa sobre a possibilidade de ocorrer alguma catástrofe, emitido pela previsão de tempo.
	18	警報 keihou	危険ガ迫ッテイテ、警戒スルヨウニ気象庁ガダス情報デス。 Comunicado que informa sobre a iminência do perigo, para que se tomem as medidas de precaução necessárias, emitido pela previsão de tempo.
	19	大雨 ooame	ヒドク大量ニ降ル雨ノコトデス。 São chuvas violentas em grande quantidade.
	20	洪水 kouzui	雨ヤ雪ドケナドニヨッテ、川ノ水ノ量ガイツモヨリモ増加スルコトデス。 São enchentes advindas do volume de chuva ou degelo de neve.

分類	番号	用語	説明
	No.	Palavras	Explicação
	21	暴風 bouffuu	ハゲシイ風、被害ヲ甚コス風ノトドス。 São tempestades de ventos fortes que causam grandes prejuízos.
	22	台風 taifuu	強イ風ガ吹キ、大雨ヲ降ラセル熱帯低気圧デス。7月カラ10月ニ多ク発生シ、日本ニモ被害ガデマス。インド洋デハ、ハリケーン。インド洋デハ、サイクロン。 São furacões, com vendavais, chuvas devido a baixa da pressão atmosférica tropical. Ocorrem frequentemente entre julho à outubro. Causando prejuizos até no Japão. No atlântico chamados de "Hurricanes". No Oceano Índico de ciclones.
風水害	23	土砂災害 doshu saigai	長ク雨が降ツタリ、大雨ガ降ツタリシタ時ニ起キルガケ崩レ、土石流、地スベリナドノ災害デス。 São desastres de desmoronamentos, avalanches, deslizamentos devido a períodos prolongados de chuvas ou chuvas muito fortes.
Calamidades devido a água	24	集中豪雨 shuuchuu gouu	短イ時間ニ多クノ雨が狭イ地域ニ降ルコトデス。土砂災害ノ危険ガ高マリマス。 São chuvas torrenciais que ocorrem em um curto período em uma pequena região. Causam grande perigo de deslizamentos.
	25	竜巻 tatsumaki	雲ノ下カラ地面ニ延ビタ非常ニ早イスピードデ回転スル空気が渦デス。日本ノコデモ季節節ヲ問ワズ、発生シマスガ、特ニ9月ガ最も多ク発生シテイマス。猛烈ナ風ニヨリ、人々ヤ建物ニ被害ガ出マス。 São tornados de ventos em turbilhão de alta velocidade que vem como redemoinho por baixo das nuvens, em direção à terra. No Japão ocorrem independente da estação, porém mais frequentes em setembro. Seus ventos violentos podem causar prejuizos às pessoas e construções.
	26	火災 (火事) Kasai (kaji)	建物・船・山ナドガ焼ケルコトデス。火ノ災害デス。 Os incêndios queimam prédios de construção, navios e montanhas. São calamidades devidos ao fogo.
	27	初動消火 shoki shouka	火災ノハジメニ火ヲ消シ、火事ナラナイヨウニスルコトデス。 Quando o fogo está no início pode ser apagado enquanto não se transforma num incêndio.
火災	28	消火器 shoukaki	火災ノハジメニ火ヲ消シ、持ち運びデキル器具デス。 É um aparelho portátil, usado para extinguir o fogo na fase inicial do incêndio.
Calamidades devido a fogo	29	住宅用火災警報器 juutakuyou kasai keihouki	火災ニヨツテ発生シタ煙ヲ自動的ニ感知シテ、家中ニイル人ニ対シ、ブザーヤ音声ニヨリ火災ノ発生ヲ知らせル器具。スデニ建テラレテイル家ハ、平成20年5月31日マデニ取り付ケケテハナリマセン。 Aparelho que capta automaticamente a fumaça de incêndio, e através do acionamento de alarme ou de gravação, alerta as pessoas que estiverem dentro da casa, em caso de incêndio. A partir de 31.mai.2008, todas as construções passarão a ter que instalar alarmes.

分類	番号	用語	説明
	No.	Palavras	Explicação
緊急 Emergências	30	救急 kyuukyuu	緊急二病院に行カナイケナイ状態ノトデス。 Situação de emergência tal que a pessoa deve ser levada ao médico.
	31	急病 kyuubyou	急ニ起コッタ病氣ノトデス。 Doença repentina.
	32	交通事故 koutsuu jiko	車ヤ自転車、電車ナドニブツツカルコトデス。多クノ場合、ケガヲシマス。 Acidentes envolvendo carros, bicicletas, ônibus, etc. Na maioria das vezes há feridos.
	33	AED	電氣シヨックヲ行ウ機械デス。コンピューターニヨッテ自動的ニ患者ノ心臓ノ状態ヲ解析シ、シヨックガ必要カドウカ判断シマス。一般ノ方モAEDヲ扱ウコトヲ認メラレテイマス。 É uma máquina de choque elétrico. O computador avalia a situação do coração do paciente, avaliando automaticamente a necessidade ou não da aplicação do choque para a reanimação. As pessoas em geral podem manipulá-lo.
	34	心肺蘇生法 shinpai soseihou	意識ガイナイ人ニ対シテ、命ヲ助ケルタメニ行ウ手順。人工呼吸ト胸骨圧迫(心臓マッサージ)デ心肺蘇生法デス。 É um processo usado para salvar a vida da pessoa em estado inconsciente. É um método de reanimação cardio-pulmonar feito com respiração artificial e pressionamento no peito (massagem cardíaca).
	35	防災 bousai	災害ヲ家ヤ地域カラ遠ザケル、マダハ減ラヌヨウニ知恵ヲ使イ、ミンナデ実行スルコトデス。 Prevenção para evitar catástrofes individuais ou à comunidade ou para reduzi-los, juntando o conhecimento e a colaboração de todos.
	36	自主防災組織 jishu bousai	災害カラ命ヤ財産ヲ守ルタメニ、地域ノ人チガ協力シ合ツテ災害ニ立チ向カウ団体デス。皆サン一人ヒリガ組織ノ一員デス。 São grupos formados de pessoas da região que com a colaboração de todos, fazem a prevenção contra calamidades, protegendo a vida e o patrimônio.
	37	防災訓練 bousai kuren	災害ノ時ニ的確ニ行動シ、被害ヲ最小限ニオサエルタメニ行ウ訓練ノコト。消火・応急手当・炊出し・地震体験・煙体験訓練ナドガアリス。 São treinamentos feitos para minimizar os danos. Extinguir incêndio, medidas de emergência, distribuição de alimentos, simulação de terremoto.
	38	避難 hinan	災害ヲ避ケルタメニ、安全ナ場所ヘ逃ケルコトデス。 Fuga para um lugar seguro para se proteger de alguma catástrofe.
	39	避難所 hinanjo	災害ニヨリ被害ヲ受ケ蒙ラズ住メナクナツタリ、危険ナトキニ一時的ニ避難スル場所デス。豊橋市ハ第1指定避難所ハ校区・地区市民館、第2指定避難所ハ小・中学校ニナリス。 Local onde se refugiar temporariamente quando a própria casa se torna inabitável devido a alguma catástrofe. Em Toyohashi o 1º Determinado de Refúgio são os Centros Comunitários dos Distritos Escolares e de Bairro e o 2º lugar Determinado de Refúgio são as Escolas primárias e ginásiais.
40	緊急救護所 oukyuu	災害ノ時ニ病院ノカワリナル場所デス。大キナ災害ガ起キルト、病院ハ混乱シマス。ソコデ豊橋市デハ、中学校区ニ1カ所設置シマス。 São locais onde é feito o atendimento médico em situações de grandes catástrofes. Quando acontece uma grande catástrofe, os hospitais ficam saturados; nestes casos em Toyohashi são instalados em 2 distritos da escola ginásial.	
		kyuugoshou	

分類	番号	用語	説明
	No.	Palavras	Explicação
	41	避難準備情報 hinan junbi jouhou	避難スルノニ時間ガカルガ方(高齢者や障害者ナド)ニ対シテ早メノ避難ヲ促ス情報デス。 É um informe para aqueles que tem dificuldade de se locomover (idosos, portadores de deficiência, etc) para alertar antecipadamente sobre a necessidade de se refugiar rapidamente.
	42	避難勧告 hinan kankoku	通常ノ避難行動ガデキルガ方ニ避難ヲ促ス情報デス。 É um informe sobre a necessidade de se refugiar prontamente, para as pessoas em condições de se refugiar normalmente.
	43	避難指示 hinan shiji	危険ガ迫ツテオリ、早急ナ避難ヲ促ス情報デス。 É o informe dado quando o perigo está iminente, alertando sobre a necessidade de refugiar-se urgentemente.
	44	備蓄品 bichiku hin	災害ガ起キテカラ、貴イ物ニイッテモ簡単ニハ手ニ入リマセン。食べ物(目安ハ3日分)ヤ水、生活ニ必要ナモノヲ日ゴロカラ用意シテオキマシヨウ。 Quando acontece uma catástrofe não é fácil conseguir fazer compras. Por isso é recomendável deixar preparado antecipadamente suprimentos (suficiente para uns 3 dias) e água, para a manutenção diária.
	45	非常持出品 hijou mochidashi hin	災害ニヨリ避難スルトキニ持出ス最小限ノ必要ナモノノコトデス。 Material mínimo necessário para se levar em casos de ter que se refugiar em situações de emergência.
その他 Outros	46	ライフライン Lifeline	電気・水道・ガスナド生活ニ必要不可欠ナモノノコトデス。災害時ハ、コレガストップスルト考エラレマス。 Material indispensável para a vida diária como energia elétrica, água e gás. Em caso de catástrofes, acredita-se que o fornecimento desses itens serão interrompidos.
	47	消防団 shouboutan	仕事ヲ持チナガラ自分ノ地域ヲ災害カラ守ル人ノ集マリデス。 Pessoas com trabalho próprio e que participam como responsáveis pela proteção de bens patrimoniais de uma região.
	48	消防署 shoubousho	消防活動ヤ、救急活動ヲスル機関ノコトデス。 Órgão responsável pelos serviços do corpo de bombeiros e salvamentos de emergência.
	49	交番 kouban	警察ガ設置シテイル施設デス。警察官ガ地域ノ相談ニツタリ、事件ニ対応シマス。 Postos policiais. Os policiais dão consultas à população da região e atuam em casos de ocorrências.
	50	災害対策本部 saigai taisaku honbu	災害状況を正確ニシテ、今後ノ対策ヲ決定スルトコロデス。 Averiguan a situação da catástrofe e decidem as medidas que devem ser tomadas posteriormente.

## アンケート調査票 II

### 問い1.

(1)「防災の手引き」は市役所で配布している災害時の行動マニュアルです。

該当している番号に○をつけてください

- ①家にあって、読んだことがある
- ②家にはあるが、パラパラと見た程度である
- ③家にあるが、読んだことはない
- ④家にあるかないか、わからない
- ⑤家にはない

(2)「地震防災マップ」は危険度が高い場所と避難場所が記されています。これも市役所で配布しています。

該当している番号に○をつけてください

- ①家にあって、読んだことのある人
- ②家にはあるが、パラパラと見た程度である
- ③家にあるが、読んだことはない
- ④家にあるかないか、わからない
- ⑤家にはない

### 問い2.

日本では大きな地震や洪水などが発生し、あなたのお住まいに被害が及びそうな時や、帰宅することが難しくなる時に避難できる場所を指定しています。

該当している番号に○をつけてください

- ①指定された避難場所を知っていて、行ったこともある人
- ②避難場所の施設名も場所も知っているが、行ったことはない
- ③避難場所の施設名は知っているが、どこにあるのかわからない
- ④自宅や職場近くに避難場所があるのかわからない
- ⑤避難場所というものがあることを知らなかった

### 問い3.

大地震が発生したときに、あなたが家の中にいたとします。

頭を守るために机の下にもぐる。火を使っていれば火を消す。入り口がふさがれないようにするなどの行動が「防災の手引き」16～19ページに書いてあります。

該当している番号に○をつけてください

- ①こうした行動をとることを訓練したことがある
- ②訓練したことはないが、こうした行動が望ましいことは知っている
- ③こうした行動をとる方が安全だということは知らなかった

### 問い4.

大地震などの災害が発生すると、電話回線が混んで家族との連絡がとりにくくなります。

NTTには安否を確認する伝言システムがあります(防災の手引き P52)

該当している番号に○をつけてください

- ① 伝言システムの体験利用をしたことがあり、家族でも利用するよう話し合っている
- ② 伝言システムがあることは知っているが、利用したことはない
- ③ 伝言システムがあることは知っているが、使い方がわからない
- ④ 伝言システムがあることは知らなかった

### 質問5.

①災害時に困ると思われること何ですか？ご意見のある方はご発言ください。

②災害情報はどのようなコミュニティーを通じて伝わるのがよいと思いますか？ //

③防災情報について他に質問はありますか？ //

# ENQUETE

1º ITEM.

(1) O GUIA DE PREVENÇÃO CONTRA CATÁSTROFES, é um manual que foi elaborado pela prefeitura, para orientar como agir em caso de catástrofes.

Por favor, circule o número correspondente a alternativa que escolher.

- ① Tenho em casa e já cheguei a ler.
- ② Tenho em casa, mas só o folheei.
- ③ Tenho em casa, mas nunca cheguei a ler.
- ④ Não sei se tenho em casa.
- ⑤ Não tenho em casa.

(2) O MAPA DE PREVENÇÃO DE TERREMOTO, mostra os locais considerados perigosos e os locais de refúgio. Este também é distribuído pela prefeitura.

Por favor, circule o número correspondente a alternativa que escolher.

- ⑥ Tenho em casa e já cheguei a ler.
- ⑦ Tenho em casa, mas só o folheei.
- ⑧ Tenho em casa, mas nunca cheguei a ler.
- ⑨ Não sei se tenho em casa.
- ⑩ Não tenho em casa.

2º ITEM.

Como no Japão ocorrem terremotos e enchentes, existem locais específicos para poder se refugiar, caso sua residência sofra muitos danos e não seja possível voltar para casa.

Por favor, circule o número correspondente a alternativa que escolher.

- ① Já sei qual é o local de refúgio e também já fui conhecê-lo.
- ② Sei qual o nome do local e a localização, mas ainda não fui até lá.
- ③ Sei qual o nome do local, mas não sei onde fica.
- ④ Não sei se há locais de refúgio perto da minha residência ou do meu local de trabalho.
- ⑤ Não sabia que existiam locais de refúgio.

3º ITEM.

Se houver um grande terremoto quando você estiver dentro de sua residência.

Nas páginas 16 à 19 do GUIA DE PREVENÇÃO CONTRA CATÁSTROFES, está escrito que deve entrar embaixo da mesa para proteger a cabeça, que se estiver utilizando fogo deve apagá-lo e o que deve fazer para que a saída não fique obstruída.

Por favor, circule o número correspondente a alternativa que escolher.

- ① Já fiz um treinamento simulado de como agir nessa situação
- ② Embora não tenha feito nenhum treinamento, sei que nesses casos, é necessário agir dessa forma.
- ③ Não sabia que era mais seguro agir dessa forma.

4º ITEM.

Quando acontece um desastre devido a um grande terremoto, as linhas telefônicas ficam congestionadas, o que dificulta o contato com os familiares. Para isso a NTT possui um sistema de verificação de mensagens (pag.52 do GUIA DE PREVENÇÃO CONTRA CATÁSTROFES).

Por favor, circule o número correspondente a alternativa que escolher.

- ① Já testei esse Sistema de Mensagens e combinei com minha família de utilizá-lo.
- ② Sei desse Sistema de Mensagens, mas nunca o utilizei.
- ③ Sei desse Sistema de Mensagens, mas não sei como utilizá-lo.
- ④ Não sabia da existência desse Sistema de Mensagens.

5º ITEM.

① Qual você acha que é o maior problema quando acontece um desastre natural? Se você tiver uma opinião, por favor nos apresente.

② Qual você acha que é a melhor forma de transmitir as informações sobre os desastres naturais?

③ Você tem mais alguma pergunta com relação às informações sobre os desastres naturais?

## 2.2.2 アンケートの実施について

アンケートの実施は外国人コミュニティへの呼びかけや参集について豊橋市の協力を得た。また、コミュニティによって状況が異なるため以下の実施方針をとることとした。

表 2.3 アンケートの実施方針

	呼びかけ (コミュニティ代表者との調整)	調査可能 時間	調査方針	日程
金田住宅	豊橋市から自治会長の了解を得て、NPOが行う防災セミナーの時間を一部使わせていただき調査できるよう調整していただいた。	10～15分	×防災用語アンケート調査  ○アンケート調査	2月28日  金田住宅集会所
岩田団地	豊橋市から自治会長を通じて呼びかけていただいた	1時間	○防災用語アンケート調査  ○アンケート調査（ポルトガル語）  ○口頭ヒアリング	3月1日  岩田団地集会所

## 2.2.3 集計結果

### 1) アンケート調査票Ⅰ (コノ言葉ワカリマスカ?)

回答者数：11名

#### 地震

・海外でも日本語の「TSUNAMI」が用いられることで有名な「津波」は、全員が「わかる」と答えており、認知度は22点である。次に認知度が高い言葉は、「震度（わかる81.8%、20点）」、3位が「東海地震（わかる81.8%、19点）」である。

・認知度が一番低い言葉は、「耐震診断（わからない54.5%、9点）」「耐震補強（わからない54.5%、9点）」である。

表 2.4 地震に関する言葉の理解度

	用語	わかる (2点)	あまりわ からない (1点)	わからな い (0点)	未回答	計	認知度点 数※	認知度点数 (100点満点 換算)
1	マグニチュード	7	3	1	0	11	17点	77.3点
		63.6%	27.3%	9.1%	0.0%	100.0%		
2	震度	9	2	0	0	11	20点	90.9点
		81.8%	18.2%	0.0%	0.0%	100.0%		
3	東海地震	9	1	1	0	11	19点	86.4点
		81.8%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%		
4	余震	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
5	津波	11	0	0	0	11	22点	100.0点
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		
6	液状化	5	0	6	0	11	10点	45.5点
		45.5%	0.0%	54.5%	0.0%	100.0%		
7	東海地震調査情報	5	4	2	0	11	14点	63.6点
		45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%		
8	東海地震注意情報	6	3	2	0	11	15点	68.2点
		54.5%	27.3%	18.2%	0.0%	100.0%		
9	東海地震予知情報	5	3	2	1	11	13点	59.1点
		45.5%	27.3%	18.2%	9.1%	100.0%		
10	警戒宣言	4	2	5	0	11	10点	45.5点
		36.4%	18.2%	45.5%	0.0%	100.0%		
11	災害用伝言ダイヤル	4	2	5	0	11	10点	45.5点
		36.4%	18.2%	45.5%	0.0%	100.0%		
12	耐震診断	4	1	6	0	11	9点	40.9点
		36.4%	9.1%	54.5%	0.0%	100.0%		
13	耐震補強	4	1	6	0	11	9点	40.9点
		36.4%	9.1%	54.5%	0.0%	100.0%		
14	家具の転倒防止	4	2	5	0	11	10点	45.5点
		36.4%	18.2%	45.5%	0.0%	100.0%		
15	ガラス飛散防止	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
16	緊急地震速報	5	2	4	0	11	12点	54.5点
		45.5%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%		

※認知度点数は、「わかる」2点、「あまりわからない」1点、「わからない」0点として、人数×点数で計算した。その最高点を100点とした認知度点数を算出した。

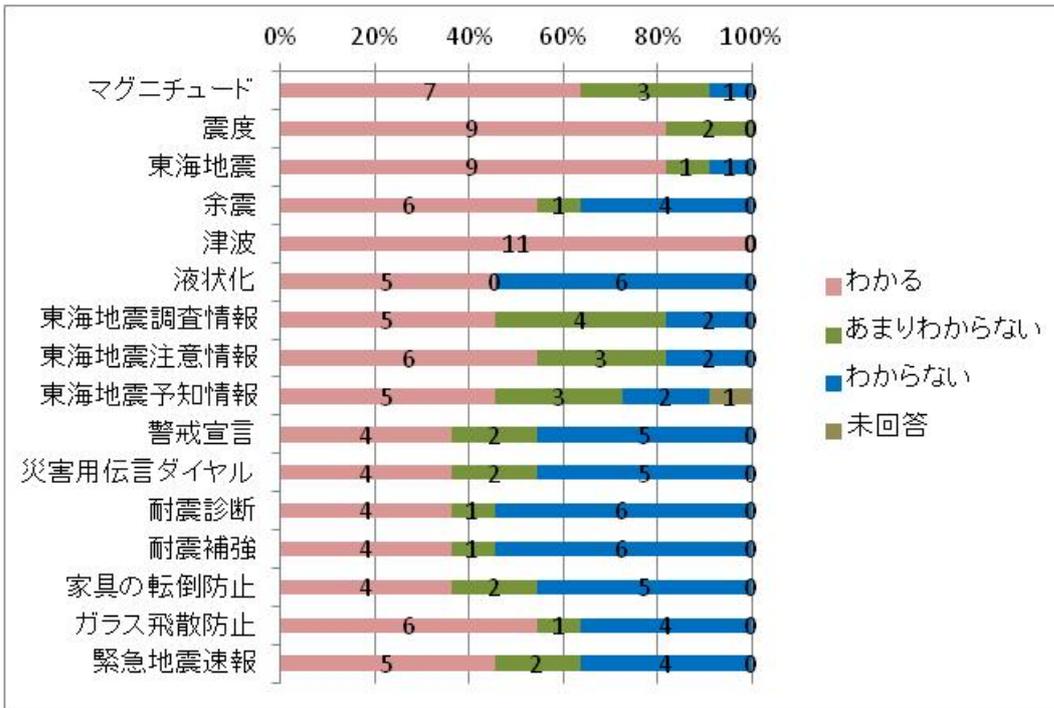


図 2.2 地震に関する言葉の理解度

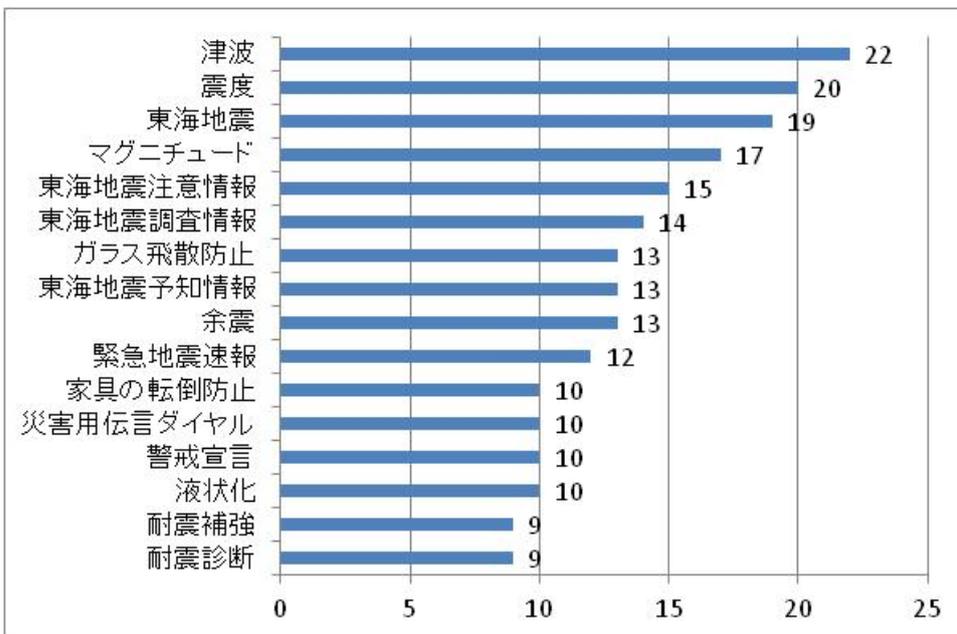


図 2.3 地震に関する言葉の理解度ランキング

## 風水害

・「台風」が一番認知度が高く、81.8%の人が「わかる」と答えており、認知度は19点である。次いで、「竜巻（わかる63.6%、15点）」、3位は「大雨（わかる63.6%、14点）」である。

・認知度が一番低い言葉は、「注意報（わからない45.5%、11点）」「警報（わからない45.5%、11点）」である。

表 2.5 風水害に関する言葉の理解度

	用語	わかる (2点)	あまりわ からない (1点)	わからない (0点)	未回答	計	認知度点 数※	認知度点 数(100点 満点換算)
17	注意報	5	1	5	0	11	11点	50.0点
		45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	100.0%		
18	警報	5	1	5	0	11	11点	50.0点
		45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	100.0%		
19	大雨	7	0	4	0	11	14点	63.6点
		63.6%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
20	洪水	6	0	5	0	11	12点	54.5点
		54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%		
21	暴風	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
22	台風	9	1	1	0	11	19点	86.4点
		81.8%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%		
23	土砂災害	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
24	集中豪雨	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
25	竜巻	7	1	3	0	11	15点	68.2点
		63.6%	9.1%	27.3%	0.0%	100.0%		

※認知度点数は、「わかる」2点、「あまりわからない」1点、「わからない」0点として、人数×点数で計算した。その最高点を100点とした認知度点数を算出した。

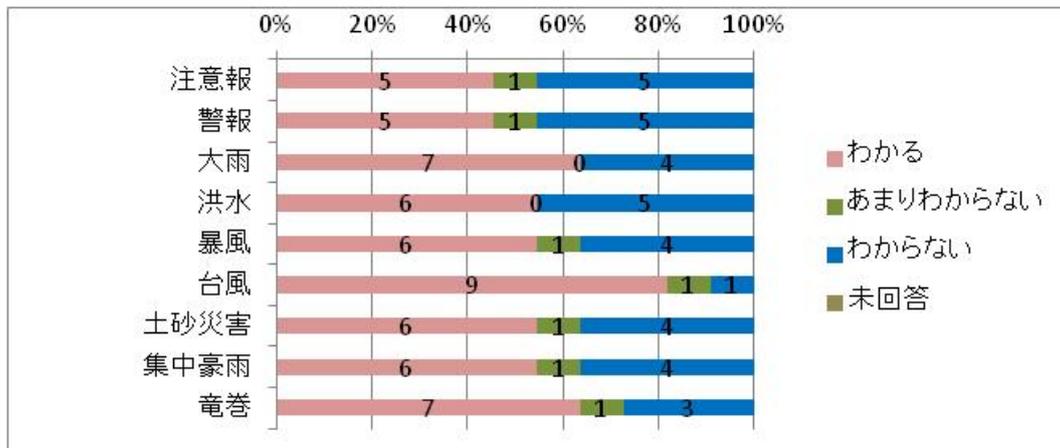


図 2.4 風水害に関する言葉の理解度

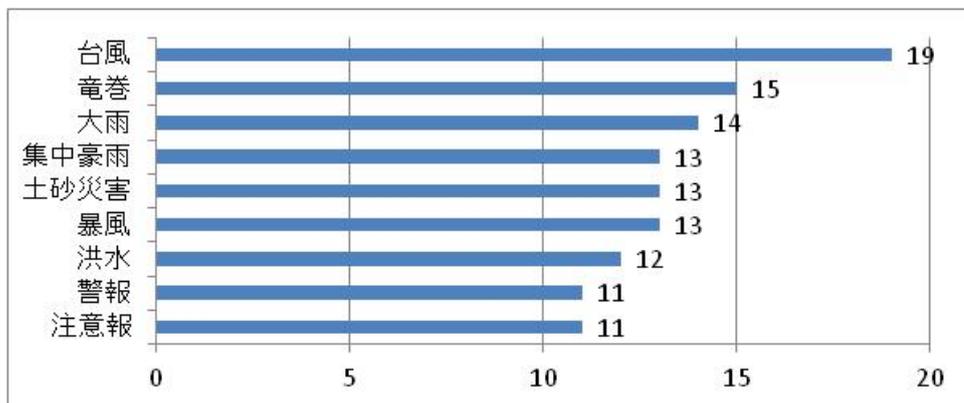


図 2.5 風水害に関する言葉の理解度ランキング

## 火災

・認知度が一番高いのは、「火災（火事）」で72.7%の人が「わかる」と答えており、認知度は16点である。

表 火災に関する言葉の理解度

	用語	わかる (2点)	あまりわ からない (1点)	わからな い (0点)	未回答	計	認知度点 数	認知度点 数(100点 満点換算)
26	火災(家事)	8	0	3	0	11	16点	72.7点
		72.7%	0.0%	27.3%	0.0%	100.0%		
27	初期消火	6	0	5	0	11	12点	54.5点
		54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%		
28	消火器	7	0	4	0	11	14点	63.6点
		63.6%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
29	住宅用火災 警報器	6	0	5	0	11	12点	54.5点
		54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%		

※認知度点数は、「わかる」2点、「あまりわからない」1点、「わからない」0点として、人数×点数で計算した。その最高点を100点とした認知度点数を算出し

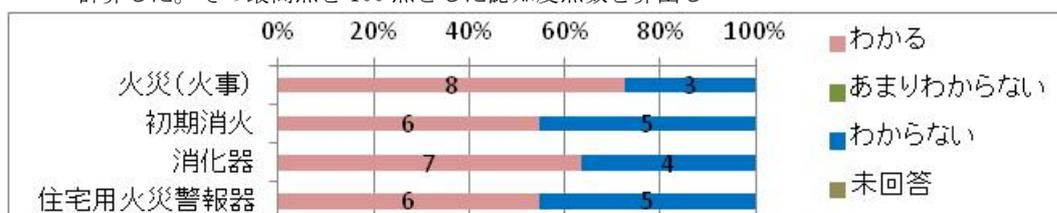


図 2.6 火災に関する言葉の理解度

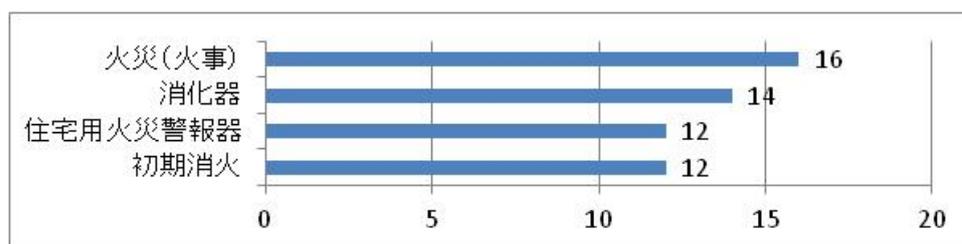


図 2.7 火災に関する言葉の理解度ランキング

## 救急

・認知度が一番高いのは、「交通事故」で 63.6%の人が「わかる」と答えており、認知度は 15 点である。

・認知度が一番低いのは、「心肺蘇生法」で、「あまりわからない」+「わからない」と答えた人が 72.8%になり、認知度は 10 点である。

表 2.7 救急に関する言葉の理解度

	用語	わかる (2点)	あまりわ からない (1点)	わからない (0点)	未回答	計	認知度点 数	認知度点 数(100点 満点換算)
30	救急	7	0	4	0	11	14点	63.6点
		63.6%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
31	急病	6	1	4	0	11	13点	59.1点
		54.5%	9.1%	36.4%	0.0%	100.0%		
32	交通事故	7	1	3	0	11	15点	68.2点
		63.6%	9.1%	27.3%	0.0%	100.0%		
33	AED	5	4	2	0	11	14点	63.6点
		45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	100.0%		
34	心肺蘇生 法	3	4	4	0	11	10点	45.5点
		27.3%	36.4%	36.4%	0.0%	100.0%		

※認知度点数は、「わかる」2点、「あまりわからない」1点、「わからない」0点として、人数×点数で計算した。その最高点を100点とした認知度点数を算出した。

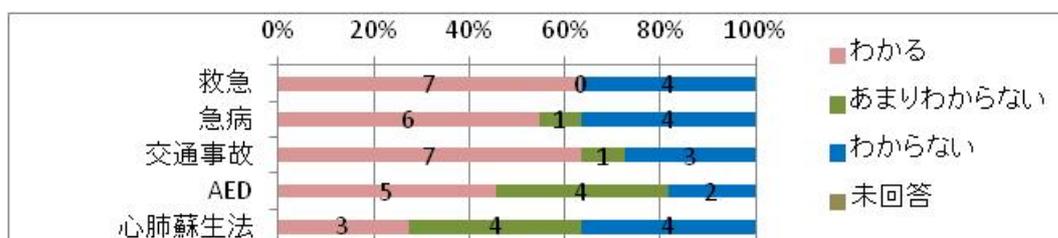


図 2.8 救急に関する言葉の理解度

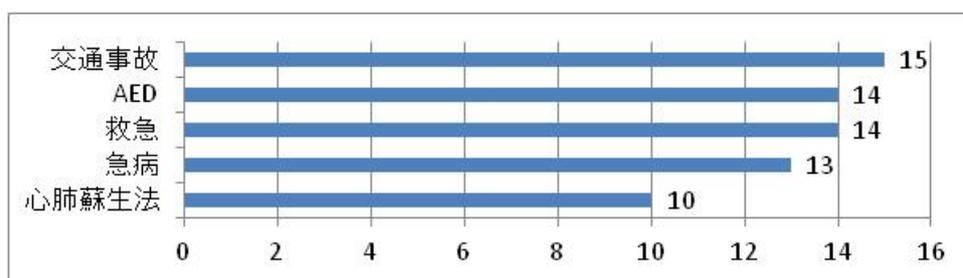


図 2.9 救急に関する言葉の理解度ランキング

## その他

・「交番」が一番認知度が高く、81.8%の人が「わかる」と答えており、認知度は19点である。次いで「消防署（わかる63.6%、14点）」「避難（わかる63.6%、14点）」である。

・認知度が一番低い言葉は、「消防団（わからない54.5%、9点）」「備蓄品（わからない45.5%、9点）」「避難勧告（わからない54.5%、9点）」「応急救護所（わからない54.5%、9点）」である。

表 2.8 その他防災用語に関する言葉の理解度

	用語	わかる (2点)	あまりわ からない (1点)	わからな い (0点)	未回答	計	認知度点 数	認知度点 数(100点 満点換算)
35	防災	5	2	4	0	11	12点	54.5点
		45.5%	18.2%	36.4%	0.0%	100.0%		
36	自主防災組 織	4	3	4	0	11	11点	50.0点
		36.4%	27.3%	36.4%	0.0%	100.0%		
37	防災訓練	5	1	5	0	11	11点	50.0点
		45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	100.0%		
38	避難	7	0	4	0	11	14点	63.6点
		63.6%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
39	避難所	6	0	5	0	11	12点	54.5点
		54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%		
40	応急救護所	4	1	6	0	11	9点	40.9点
		36.4%	9.1%	54.5%	0.0%	100.0%		
41	避難基準情 報	5	0	6	0	11	10点	45.5点
		45.5%	0.0%	54.5%	0.0%	100.0%		
42	避難勧告	4	1	6	0	11	9点	40.9点
		36.4%	9.1%	54.5%	0.0%	100.0%		
43	避難指示	6	0	5	0	11	12点	54.5点
		54.5%	0.0%	45.5%	0.0%	100.0%		
44	備蓄品	3	3	5	0	11	9点	40.9点
		27.3%	27.3%	45.5%	0.0%	100.0%		
45	非常時持出 品	5	0	6	0	11	10点	45.5点
		45.5%	0.0%	54.5%	0.0%	100.0%		
46	ライフライン	5	1	5	0	11	11点	50.0点
		45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	100.0%		
47	消防団	4	1	6	0	11	9点	40.9点
		36.4%	9.1%	54.5%	0.0%	100.0%		
48	消防署	7	0	4	0	11	14点	63.6点
		63.6%	0.0%	36.4%	0.0%	100.0%		
49	交番	9	1	1	0	11	19点	86.4点
		81.8%	9.1%	9.1%	0.0%	100.0%		
50	災害対策本 部	5	1	5	0	11	11点	50.0点
		45.5%	9.1%	45.5%	0.0%	100.0%		

※認知度点数は、「わかる」2点、「あまりわからない」1点、「わからない」0点として、人数×点数で計算した。その最高点を100点とした認知度点数を算出した。

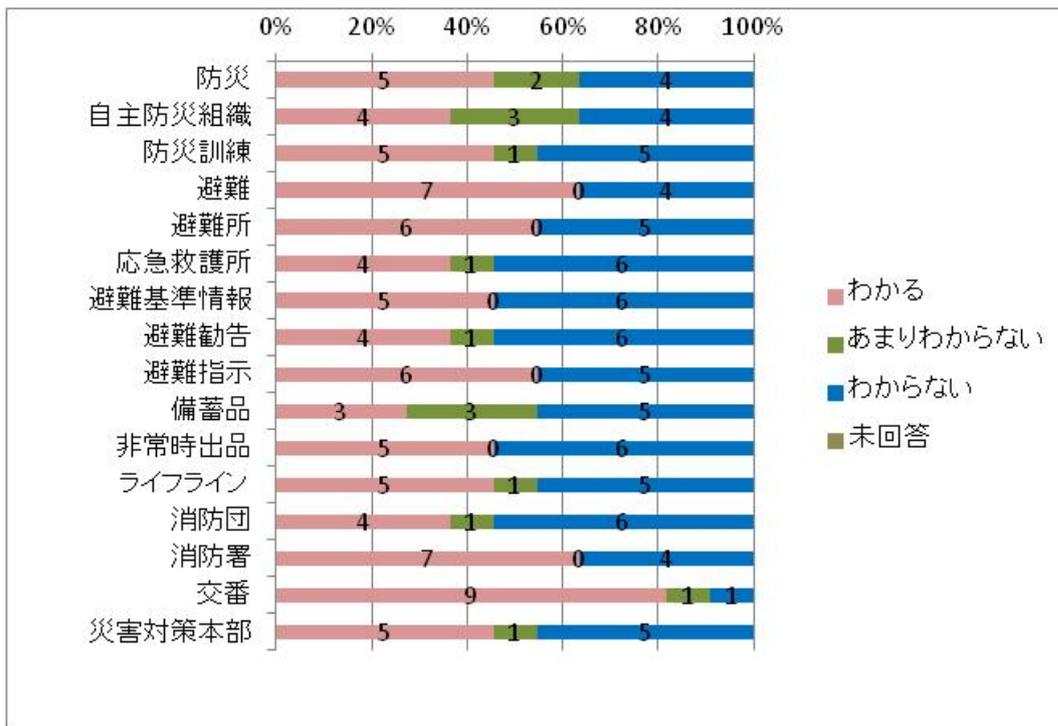


図 2.10 その他防災用語に関する言葉の理解度

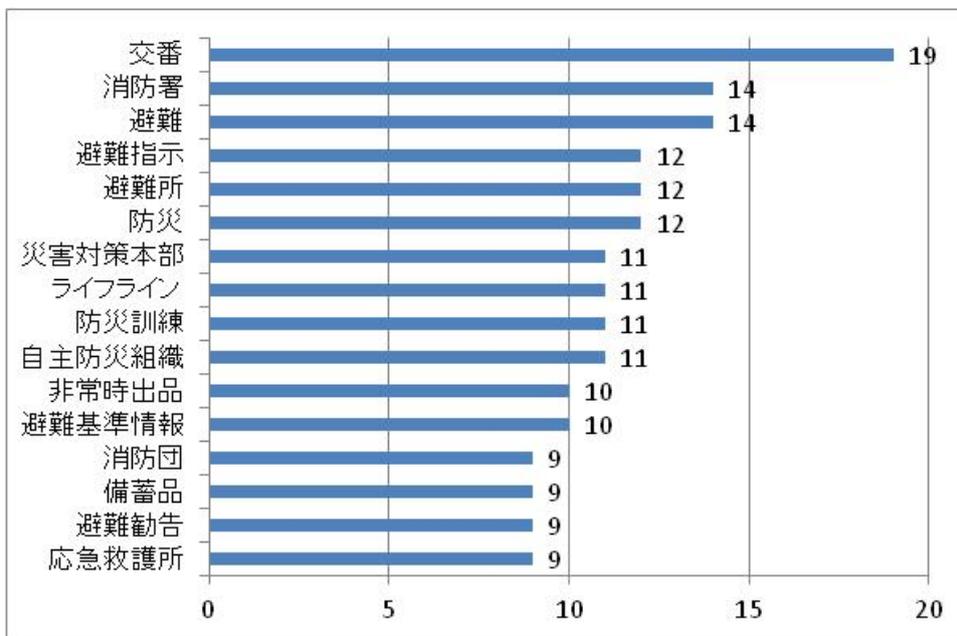


図 2.11 その他防災用語に関する言葉の理解度ランキング

## 全体ランキング

### 認知度上位3位

- 1位 100点 「津波」
- 2位 90.9点 「震度」
- 3位 86.4点 「東海地震」  
「台風」  
「交番」

### 認知度下位3位

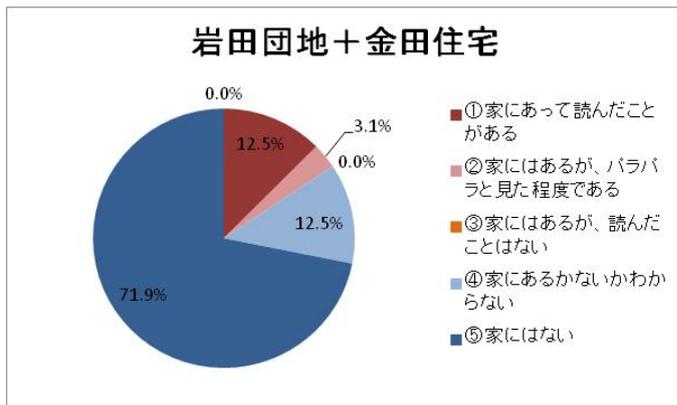
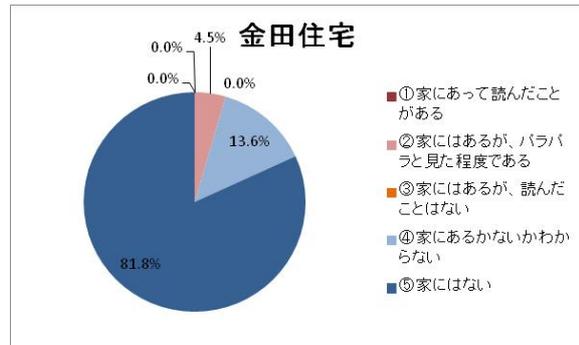
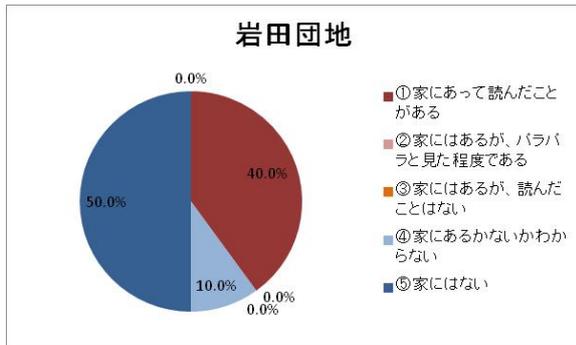
- 1位 40.9点 「耐震診断」  
「耐震補強」  
「応急救護所」  
「避難勧告」  
「消防団」  
「備蓄品」
- 2位 45.5点 「液状化」  
「警戒宣言」  
「災害用伝言ダイヤル」  
「家具の転倒防止」  
「心肺蘇生法」  
「避難基準情報」  
「非常時出品」
- 3位 50.0点 「注意報」  
「警報」  
「自主防災組織」  
「防災訓練」  
「ライフライン」  
「災害対策本部」

## アンケート調査票Ⅱ

回答者数：32人（岩田団地：10人、金田住宅：22人）

表 2.9 問1(1)「防災の手引き」について

	①家にあつて読んだことがある	②家にはあるが、パラパラと見た程度である	③家にはあるが、読んだことはない	④家にあるかわからない	⑤家にはない	⑥未回答	計
岩田団地	4 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	5 50.0%	0 0.0%	10 100.0%
金田住宅	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	3 13.6%	18 81.8%	0 0.0%	22 100.0%
合計	4 12.5%	1 3.1%	0 0.0%	4 12.5%	23 71.9%	0 0.0%	32 100.0%



岩田団地では 40%の人が読んだことがあると回答しているが、全体では約 84%の人が認知していない。

図 2.12 「防災の手引き」の理解度

表 2.10 (2)「地震防災マップ」について

	①家にあつて読んだことがある	②家にはあるが、パラパラと見た程度である	③家にはあるが、読んだことはない	④家にあるかわからない	⑤家にはない	⑥未回答	計
岩田団地	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 50.0%	0 0.0%	10 100.0%
金田住宅	2 9.1%	2 9.1%	2 9.1%	5 22.7%	11 50.0%	0 0.0%	22 100.0%
合計	6 18.8%	3 9.4%	2 6.3%	5 15.6%	16 50.0%	0 0.0%	32 100.0%

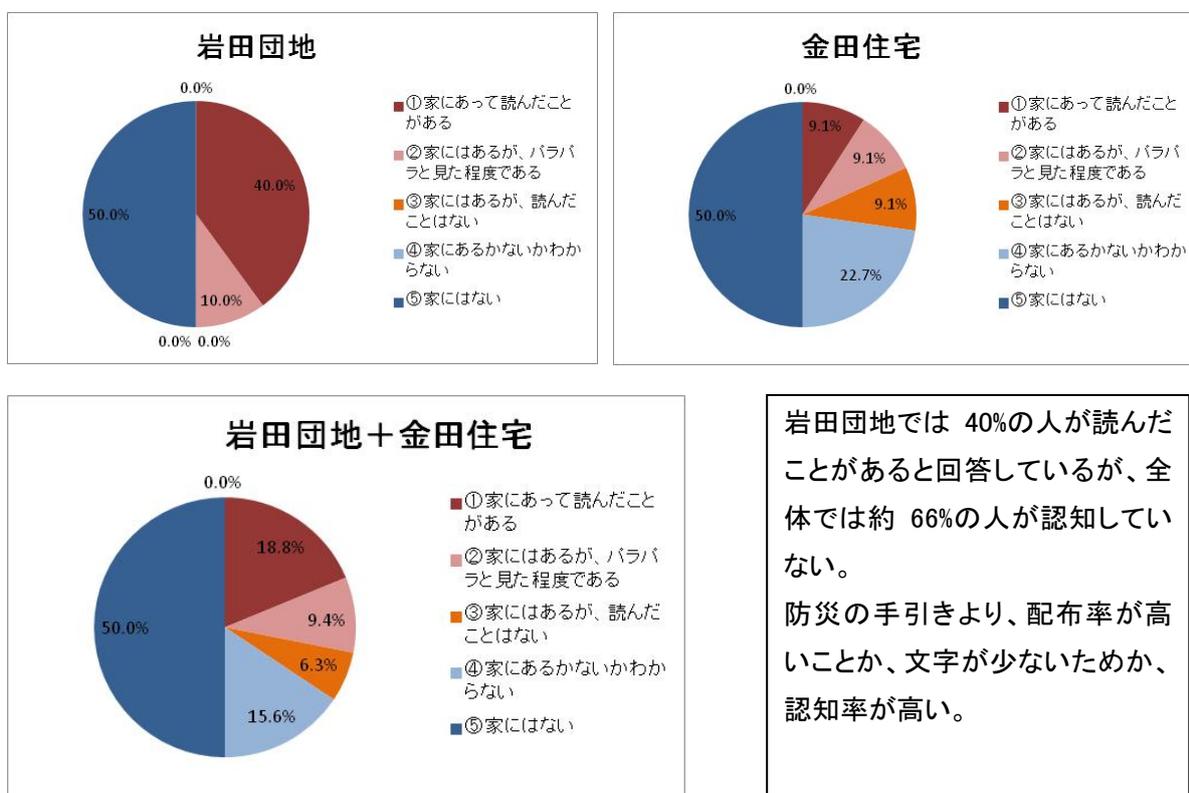


図 2.13 「地震防災マップ」の理解度

表 2.11 問 2 避難場所について

	①指定された避難場所を知っていて、行ったこともある	②避難場所の施設名も場所も知っているが、行ったことはない	③避難場所の施設名は知っているが、どこにあるかわからない	④自宅や職場近くに避難場所があるのかわからない	⑤避難場所というものがあつたことを知らなかつた	⑥未回答	計
岩田団地	3 27.3%	3 27.3%	0 0.0%	2 18.2%	3 27.3%	0 0.0%	11 100.0%
金田住宅	16 72.7%	1 4.5%	0 0.0%	2 9.1%	1 4.5%	2 9.1%	22 100.0%
合計	19 57.6%	4 12.1%	0 0.0%	4 12.1%	4 12.1%	2 6.1%	33 100.0%

※岩田団地の1名が複数回答（4と5を選択）

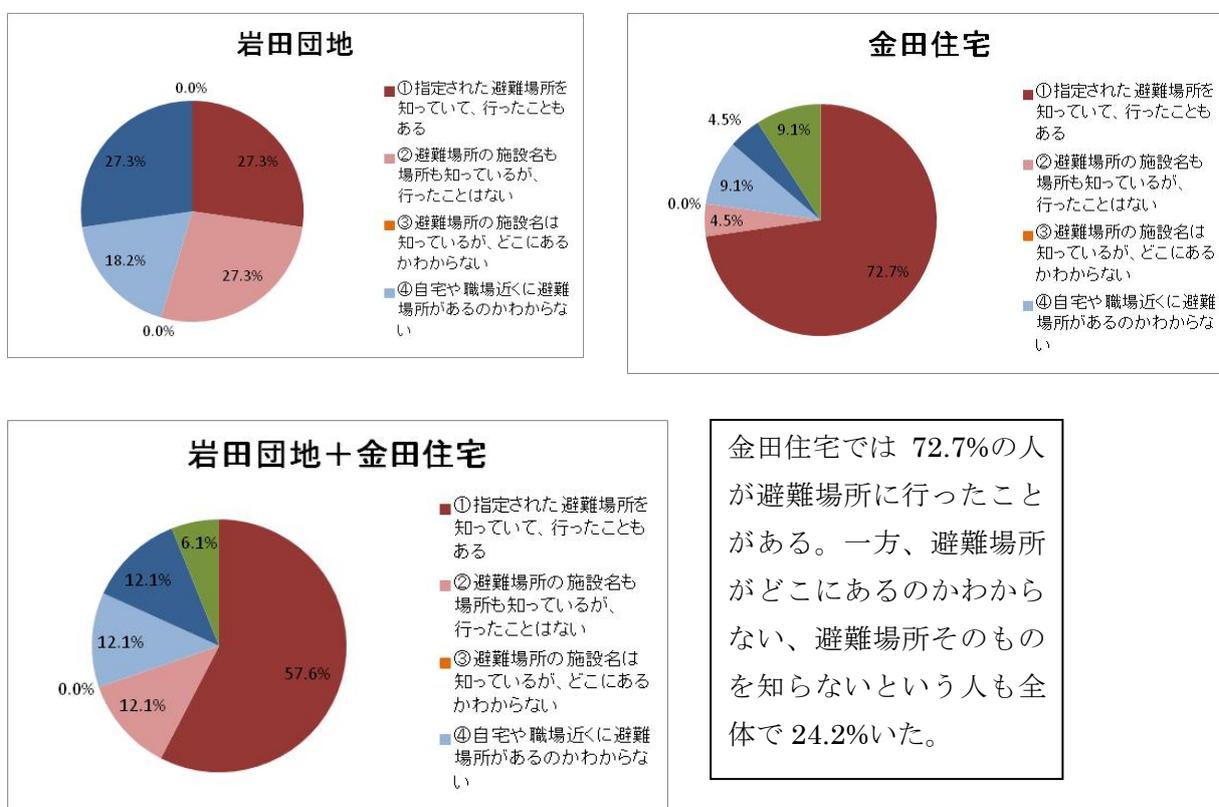
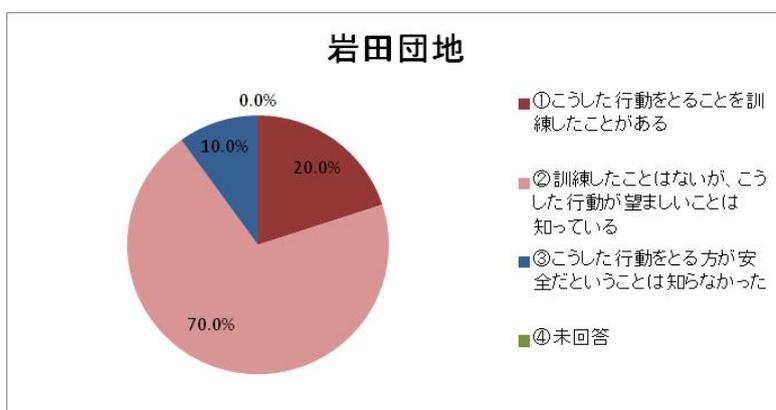


図 2.14 避難所の認知度

表 2.12 問 3 大地震発生時の行動について

	①こうした行動をとることを訓練したことがある	②訓練したことはないが、こうした行動が望ましいことは知っている	③こうした行動をとる方が安全だということは知らなかった	④未回答	計
岩田団地	2 20.0%	7 70.0%	1 10.0%	0 0.0%	10 100.0%
金田住宅	9 40.9%	13 59.1%	0 0.0%	0 0.0%	22 100.0%
合計	11 34.4%	20 62.5%	1 3.1%	0 0.0%	32 100.0%



防災の手引きにあるような、大地震発生時にとることが望ましい行動については認知度が高い。全体で①②を合わせると 96.9%の人が知っている、もしくは訓練経験があるとしている。

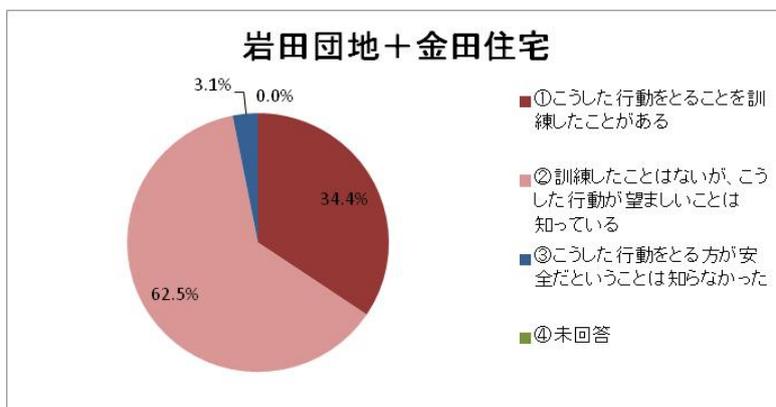
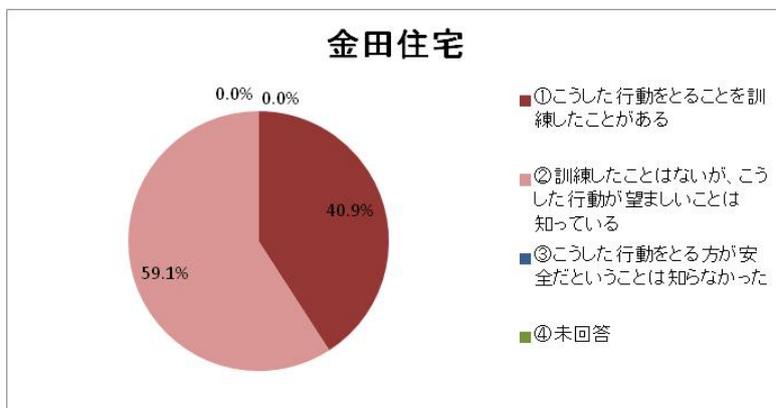
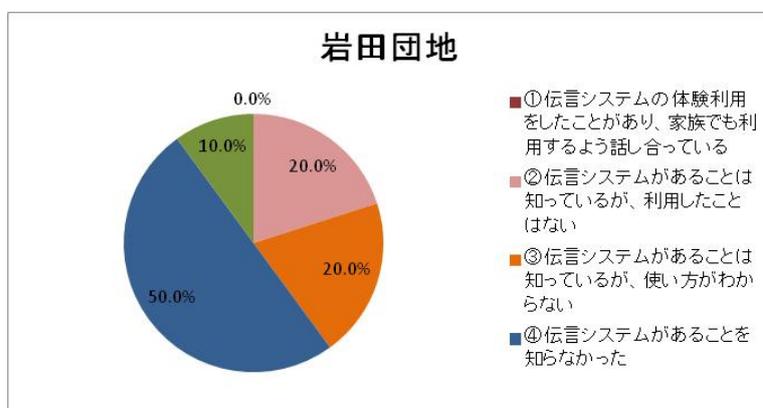


図 2.15 災害発生時の行動理解

問 2.13 NTT の災害用伝言システムについて

	①伝言システムの体験利用をしたことがあり、家族でも利用するよう話し合っている	②伝言システムがあることは知っているが、利用したことはない	③伝言システムがあることは知っているが、使い方がわからない	④伝言システムがあることを知らなかった	⑤未回答	計
岩田団地	0 0.0%	2 20.0%	2 20.0%	5 50.0%	1 10.0%	10 100.0%
金田住宅	0 0.0%	8 30.8%	11 42.3%	7 26.9%	0 0.0%	26 100.0%
合計	0 0.0%	10 27.8%	13 36.1%	12 33.3%	1 2.8%	36 100.0%

※金田住宅の4名が複数回答（4名とも2と3を選択）



全体で②と③の合計は63.9%となり半数以上の人が災害伝言システムの存在を知っていたが、33.3%の人は存在を知らなかった。

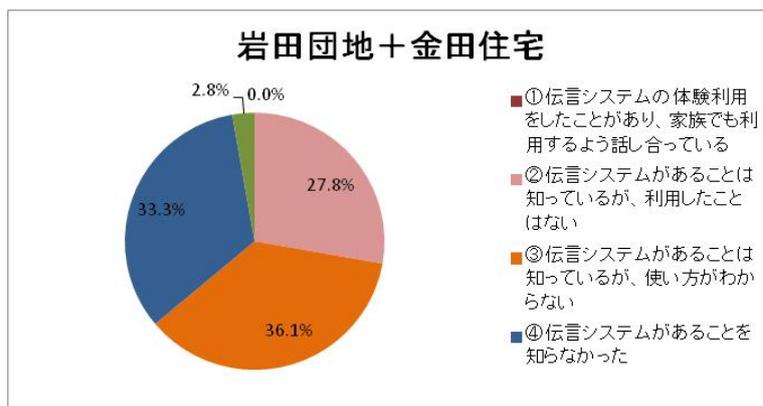
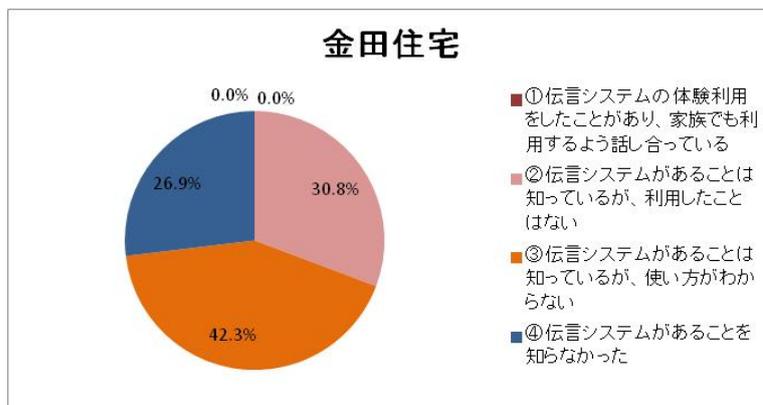


図 2.16  
防災用伝言システムの  
認知率

## 問5 ①災害時に困ると思われることは何ですか

回答者数 13名

- ・「水や食料の確保」5名
- ・「家族と連絡が取れるかどうか」5名
- ・「避難の連絡がちゃんと来るのかどうか」1名
- ・「避難所での生活」1名
- ・「パニックになること」1名
- ・「趣味ができなくなること」1名

表 2.14 回答内容

① 災害時に困ると思われることは何ですか(回答数 13名)	
1	色々な心配の中で、避難場所や知らない人と何日も一緒に暮らすことです。(金田住宅)
2	家族との連絡がとれるか。(金田住宅)
3	食糧に対して心配です。日本人はとてども几帳面過ぎて準備に時間がかかり、行動が遅いです。(金田住宅)
4	問題はパニックです。防災のシュミレーションに参加したことは有りますが、実際の時はその通りに出来るか分かりません。(金田住宅)
5	地震が発生した場合、非難の連絡は何時来るのか。(岩田団地)
6	家族が心配です。(岩田団地)
7	心配は地震の時に家族全員と会って、無事が確認できるか。食糧と水があるか。(岩田団地)
8	兄弟みんな揃うかどうか(岩田団地)
9	スケボーができなくなる。(岩田団地)
10	食料(岩田団地)
11	食料(岩田団地)
12	食べ物がなくなる。(岩田団地)
13	時間によって家族が学校や職場に居るので連絡が取れるかどうか。(岩田団地)

**問5 ②災害情報はどのようなコミュニティーを通じて伝わるのがよいと思いますか。**

回答者数 14名

- ・「団地内の放送」4名
- ・「テレビ」4名
- ・「携帯電話またはメール」4名
- ・「ラジオ」3名
- ・「ポルトガル語緊急連絡」2名
- ・「パンフレットなど地震情報ツール」2名
- ・「学校」1名

表 2.15 回答内容

② 害情報はどのようなコミュニティーを通じて伝わるのがよいと思いますか(回答数 14名)	
1	できれば携帯電話のメールに送って欲しいです。(金田住宅)
2	携帯電話に情報を送る。(金田住宅)
3	学校、テレビ、パンフレットや打合せなど。(金田住宅)
4	団地内の放送。(岩田団地)
5	e-mail(岩田団地)
6	団地内の放送。(岩田団地)
7	団地内の放送。(岩田団地)
8	ポルトガル語で緊急連絡。(岩田団地)
9	ポルトガル語で緊急連絡。(岩田団地)
10	ラジオがないから、本当は携帯が良い。(岩田団地)
11	TV、ラジオ(岩田団地)
12	テレビ、ラジオ(岩田団地)
13	テレビ、ラジオ(岩田団地)
14	毎月、地震の情報、団地内の放送(岩田団地)

問5 ③防災情報について他に質問はありますか。

回答者数 4名

表 2.16 回答内容

③防災情報について他に質問はありますか(回答数4名)	
1	防災ガイドブックには家具を留めるように載っているが、団地の壁や天井は弱くてそこに家具を留める意味があまり無いと思います。(金田住宅)
2	地震の時に岩田団地は安全ですか。この建物はどの程度の地震まで安全ですか。(金田住宅)
3	ブラジルの家族が心配するので、インターネットにその情報を載せて欲しい。その時、電話は使えないけどインターネットは普通に使えます。(金田住宅)
4	家がなくなったら新しい家はもらえますか？(岩田団地)

## その他のヒアリング

### 3.11 東日本大震災の時、どんなことが不安だったか

- ・ もし豊橋で同じことが起きたらどうなるのか、心配だ。自分は4階に住んでいるのでそうなるか不安である。(金田・岩田)
- ・ 家族と連絡が取れるか心配 (金田・岩田)
- ・ 机の下にもぐればよいとか、家に入っていたほうがよいとか、出たほうがよいといわれるが、どこまで信じてよいのかわからない。(金田)
- ・ 自分たちが住んでいる場所は、どの程度危険なのか知りたい。(金田・岩田)
- ・ 日本はトンネルが多いので、そこを通過していたらと思うと不安 (金田)

### 地震の時、家族と連絡をどう取るか決めているか

- ・ ほとんどの人は決めていない。(金田・岩田)
- ・ 避難場所を決めている。ただし、電話やメールがその時どうなるのか、そういうことは分からない。(岩田)

### どういうアイテムを使っているか、情報を得ているか

- ・ 携帯電話等 携帯電話型 4名 スマートフォン型 4名 持っていない 2名
- ・ パソコン 持っている 7名 持っていない 3名
- ・ インターネットラジオ 聞いている 1名 聞いている 9名
- ・ テレビのニュース 分かる 6名 分からない 4名

※岩田団地内では、普段の会話からみて、日本語ニュースが分かる人は全体の3割ぐらいではないか、7割の人は分からないと思う。

(以上、岩田)

### ほっとメールへの登録をどう思うか

- ・ 市のシステムなので登録しても良い 全員
- ・ 前から知っていた 1名 初めて知った 9名
- ・ 使ったことがある 1名 使ったことがない 9名
- ・ やり方が分かる 0名 あまり分からない 1名 全く知らない 9名
- ・ やり方の分かりやすい開設があればやってみたい 全員

(以上、岩田)

### 防災無線でポルトガル語で情報が流れたら信用するか

- ・ スピーカーからの情報なら信用できる 全員（電話などでは信用しない）
  - ・ 去年の地震の経験から、放送があれば信用する
  - ・ 岩田団地では普段もポルトガル語併記で放送が流れるため、信用できる
- （以上、岩田）

### 地震の時、他の人たちにも情報を伝えることができるか

- ・ 勤めている会社では防災訓練をしているので、団体での行動はとれるだろう。（女性）
- ・ 岩田団地内であれば、スピーカーから情報が流れれば、皆それに従うと思う。（男性）
- ・ 隣、近所の外国人とはあまり付き合いがないので、声を掛け合うことはむずかしい。

（以上、岩田）

### その他に、地震等が起こったらどんなことが心配されるか

- ・ テレビで見ると小学校などが避難所になっているが、小学校を知っておけば大丈夫なのか。
- ・ 地震が起きて避難を余儀なくされた時、自分たちブラジル人が避難所で他の日本人と同じような待遇で迎えてもらえるのか、自分たちは区別されてしまうのではないかという不安がある。
- ・ 逃げるときに言葉がわからないので、避難所を日本人に聞くことがむずかしい。

（以上、岩田）

### 国や市からどんなことをしてほしいか

- ・ 地震の後の津波でなくなった人が多かったと聞いている。豊橋市ではどれぐらいの津波がくるのか、この場所はどうなるのか、ということ。（金田・岩田）
- ・ 防災の手引きは情報量が多く過ぎる（岩田）
- ・ 防災無線で難しい言葉を言われてもわからないので、わかりやすい言葉を使ってほしい（岩田）

## 2.3 コミュニティーの情報伝達調査

上記 2.2.3.のアンケート調査を実施したコミュニティーの代表者等を対象として、コミュニティー内での防災情報の伝達状況に関する面会方式の聞き取り調査を行った。

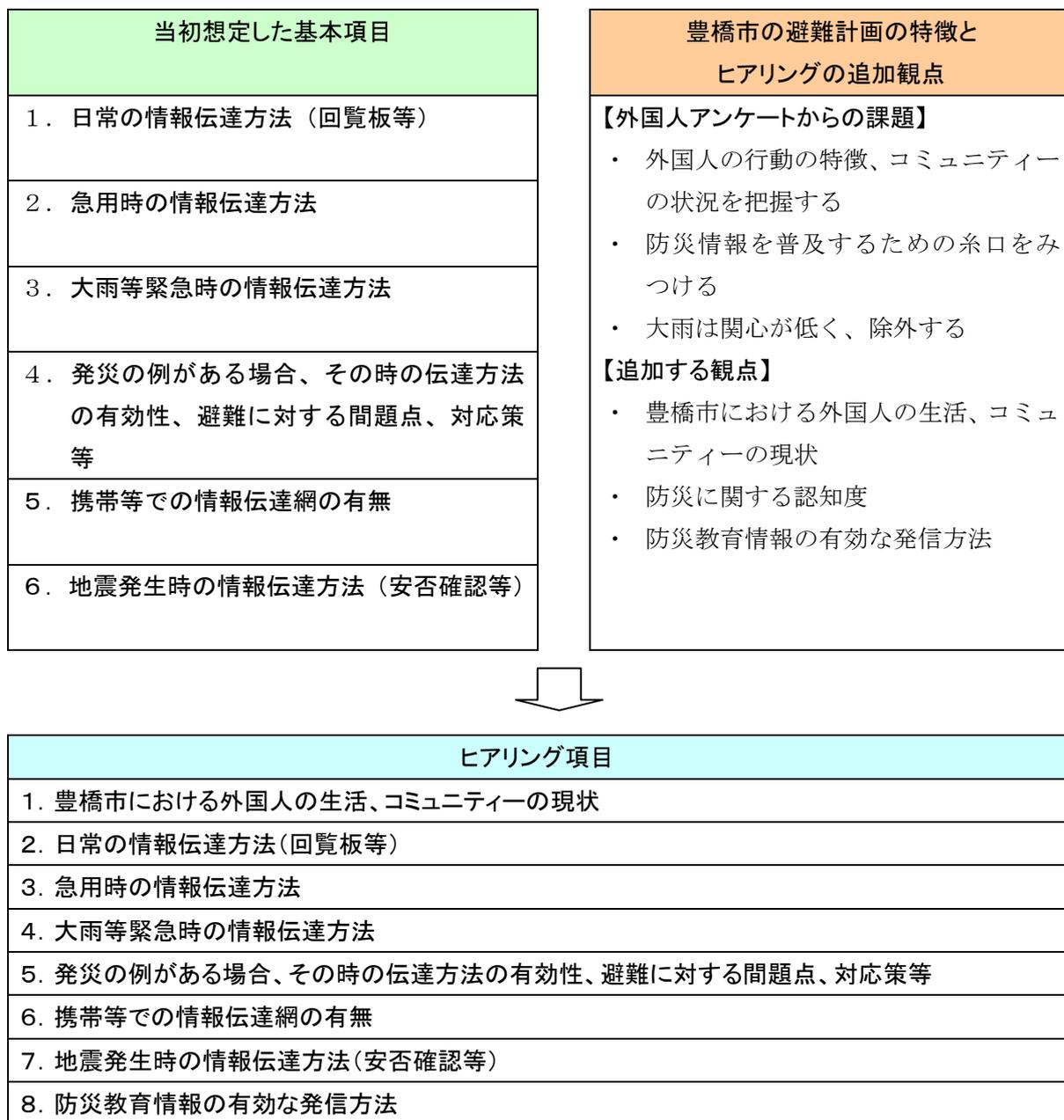


図 2.17 ヒアリング対象項目

## ヒアリング

日時:2012年3月1日 15時~16時:

場所:NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会

調査対象:ABT

調査員:株式会社建設環境研究所

### 1. 豊橋市における外国人の生活、コミュニティーの現状

#### 【生活】

- ・ ブラジル人が経営、あるいはポルトガル語が分かる社員がいる派遣会社に登録し、豊橋や湖西、浜松の工場に働きに出ている人が多い。
- ・ ブラジル人学校は費用が高いため、日本人学校に子供を通わせている人が多いが、子供が日本語が分からずに困る人も多い。
- ・ 子供の方が早く日本語を話せるようになり、通訳代わりになっている家庭もあるが、難しい言葉になると分からないというのが現状である。

#### 【コミュニティー】

- ・ 豊橋のブラジル人社会には自治会や町内会のようなコミュニティーは無い。
- ・ スポーツクラブ、文化クラブなどの集まりはいくつかある。
- ・ 教会というコミュニティーもあるが宗教も多様である。
- ・ 代表やリーダーになりたがらない人が多いため、その所在を把握することは難しい。このため、緊急情報のネットワークとすることには不向きである。

### 2. 日常の情報伝達方法（回覧板等）

#### 【情報伝達】

- ・ ブラジル人コミュニティーは少なく、どこに連絡すれば情報が伝わるのか、はっきりしていないのが現状である。
- ・ 耳で聞くのは効果的に思う。チラシなどよりも友達からの口コミの情報の方が伝わりやすい。

#### 【豊橋市】

- ・ 豊橋市からクリーンカレンダーというゴミの種類別に出す曜日を定めたカレンダーが毎年発行されている。以前は、日本語と英語であったが、約15年前からポルトガル語併記になった。これによってゴミ捨てに関する住民問題が大分解決したようだ。

- ・ パソコンを所有する人も多く、本国との連絡や、国内のブラジル情報を収集している。豊橋市役所の HP のポルトガル語情報も見ているようだ。

#### 【岩田団地】

- ・ 岩田団地ではポルトガル語併記の回覧板やポルトガル語放送などがある。

#### 【ABT 豊橋ブラジル協会】

- ・ お知らせはラジオ、チラシ、メールなどで行っている。
- ・ ABT 豊橋ブラジル協会のインターネットラジオは、夜 8 時から DJ による生番組の時間帯には聞いている人が増えている。
- ・ インターネットラジオでの日本語会話講座には割と人が集まって聞いていると思われる。愛知県警の定期的な番組コーナーもある。そこで水難事故防止情報などを飛びかけている。
- ・ 市の広報、情報なども流しており、視覚的にはインターネットの HP から、聴覚的にはインターネットラジオから情報を得ていると思われる。
- ・ 豊橋ブラジル Day というのがあり、一昨年はラジオでのイベント告知、フリーペーパー掲載、チラシ等で全国から 3 万人のブラジル人が集まった。口コミ情報が有効な手段なのだと思う。お祭りのようなイベントには多くの人が集まる傾向がある。7 月には教会のイベントがあり、こちらにも多くの人が集まると思う。

### 3. 急用時の情報伝達方法

- ・ ABT 豊橋ブラジル協会の会員約 140 人のほとんどがメーリングリストに登録している。緊急時はこれを使って連絡することになる。
- ・ それ以外の外国人はコミュニケーションをあまり取っておらず、明確な伝達方法はないようだ。

### 4. 緊急時の情報伝達方法

- ・ 特にない
- ・ 工場ではあまり無いと思う。派遣会社を通しての人たちなので、工場から何かをするということは無ないように思う。

## 5. 発災の例がある場合、その時の伝達方法の有効性、避難に対する問題点、対応策等

### 【ABT 豊橋ブラジル協会】

- ・ 協会ではインターネットラジオ(Radio Nikkey)を開設しており、東日本大震災の時はテレビのニュース内容をポルトガル語でずっと流していた。ラジオにはチャットも付いており、震災の状況を知りたがる人からのアクセスが殺到した。それを利用して双方で情報を得ることが出来たと思う。

#### ※インターネットラジオ

インターネットラジオとは、インターネット上にて、主として音声で番組を配信するコンテンツの一形態。

電波ではなく配信されるため、パソコン等を利用し聴取する。

### 【テレビ等】

- ・ テレビのニュースは日本語のみのため、情報が分からずに不安になる人が多いのが実態である。
- ・ 日本のテレビはポルトガル語が流れないので、日本語が分からない人はあまり見えていないようだ。普通のラジオもめったにポルトガル語が流れないので持っている人は少ない。

## 6. 携帯等での情報伝達網の有無

### 【高い所有率】

- ・ 携帯電話はほとんどの人が持っている。特に日本語が不得意な人は持っていないと外出先で困ることが多いので、家族や仲間と連絡が取れるように心がけて持っているようだ。
- ・ インターネットを利用したいのでスマートフォンの所有率が高い。料金が安く、ただとも割引があるソフトバンクの iPhone が人気のようだ。
- ・ パソコンのメールよりも携帯メールを使う人が多い。

## 7. 地震発生時の情報伝達方法（安否確認等）

### 【安否確認等の登録制情報発信システム】

- ・ 登録制の情報配信を行う場合には、どこからの指示で登録するのか、何のために登録するのかがはっきりしないと、不安にされる傾向がある。しかし、緊急時の情報配信のための登録で、市役所からの指示だということであれば、ブラジル人は登録してくれるのではないかと思う。

### 【サークルコミュニティ】

- ・ 何かの時にはサークルの代表に聞きに行くことが多いので、情報伝達にサークルを使うのも有効かも知れないが、代表になりたくない人、責任を持ちたくない人が多いのも特徴のひとつであり、難しいと思う。

#### 【情報伝達の問題】

- ・ 子供に対しては、大体の学校で言葉が通じる人を配置しているので、いざという時には比較的対処できる。
- ・ 大人に対しては周りに言葉が通じ人がいないと、分からないままの場合が多い。「〇〇警報」と言っても、「警報」の意味も分からない人も多いのが現状である。
- ・ 言葉が分からない、新しく入ってきた人がどんどん増えているので、伝えきれない実態があり、それが問題となっている。
- ・ 例えば避難する際、リーダーシップを取ってくれる人とかがいると良いが、自分で何とかしてしまおうとする人が多いので、リーダーがいないといざという時に個々人が勝手ばらばらな行動をしてしまう傾向がある。

#### 【防災無線】

- ・ 防災無線で日本語が流れても分からない。しかし、ポルトガル語で流されるようであれば信用してもらえと思う。

### 8. 防災情報普及の方法等について

- ・ 子供が学校に行っている人は、学校に避難すればよいということは知っているが、避難所については知っているかどうか分からない。
- ・ 協会では避難訓練等の情報は提供していない

#### 【店舗を利用した広報】

- ・ チラシはポスティングや店に置くなどしている。置いてもらえるようなブラジル人の店は豊橋市には多い。フリーペーパーや雑誌なども置いておくと見る人が多い。そういうところにポスターを置けば有効かもしれない。

#### 【クリーンカレンダー】

- ・ 豊橋市からクリーンカレンダーが出されているので、その一角に豊橋ほっとメールの登録方法や避難、暴風警報などの重要単語を記してみるのもよいと思う。

#### 【インターネットラジオ等の活用】

- ・ インターネットラジオでの日本語会話講座の中で、番組内やテキストに防災に関するキーワードを織り交ぜることは可能だと思う。

- ・ 協会でもネットワークを持っているので、いざという時には協会でも何らかの情報提供は行っていきたいと思っている。

#### 【情報量の簡素化】

- ・ 行政情報をそのまま伝えようとする、膨大な量になりかえって何が最も重要なかわかりにくく伝わらないことも多い。愛知県警の原稿も、伝わりやすいように手を入れている。
- ・ 情報配信は簡単なものにして欲しい。今のパンフレットのようなものだと、字が多すぎるので、まず見る人は少ないだろう。
- ・ いざという時に必要となる言葉（単語）、必要な電話番号、大事な場所などが一目で分かるようなものが（マグネット等で）冷蔵庫等に貼れるようなものがあると有効であると思う。
- ・ 情報の伝え方として、漢字ではなくローマ字にしてもらった方が読まれる機会は多くなると思う。
- ・ 文章が多いと読まない傾向にある。パンフレットやチラシでも文字だけだと読まない人が多いので、協会でもなるべく写真などを入れるようにしている。日本語をポルトガル語に翻訳するとかなり文字数が多くなるので、内容を見てもらいたい場合には注意が必要だと思う。

## ヒアリング

日時:2012年3月1日 21時～21時30分

場所:岩田団地事務所

調査対象:岩田団地

調査員:株式会社建設環境研究所

出席:豊橋市文化市民部多文化共生・国際課

### 日常の情報伝達方法（回覧板等）

- ・ 月2回程度。豊橋市の広報があり、その頻度に合わせている。
- ・ 駐車場やゴミにまつわる問題は多かった。
- ・ 回覧などを行っていき、この地区ではそのような問題でのトラブルはほとんど無くなった。

### 携帯等での情報伝達網の有無

- ・ インターネットは結構見ているようだ。5年ぐらい前に回線工事を行ったが、日本人よりもブラジル人の方がインターネットを始める人が多かった。

### 発災の例がある場合、その時の伝達方法の有効性、避難に対する問題点、対応策等

- ・ それほどあるということではない。まだあまり意識はされていないようだ。
- ・ しかし、中越地震(2004)の時には、夜中に不安になった人たちが集まったりしていた。その後に行った防災訓練では200人も人が集まった。  
(防災に対しての用語などは日本人、ブラジル人双方で知り合っておけばよいと思う)
- ・ 4年前にポルトガル語での防災用語の訓練をやったことがある。ただし、その後にリーマン・ショックがあり、講習を受けた人が帰ってしまった。代わりに新しい人たちが入ってきた。人数は変わらないが、言葉を知らない人が多いという状態である。近いうちにまた講習を行おうと思っている。

## 2.4 とりまとめ

アンケート調査、及びヒアリング調査から、外国人（主にブラジル人）の方々の防災情報等に関する意識について以下の項目で整理した。

表 2.17 まとめ

	自治体ヒアリング(豊橋市役所)	外国人アンケート		コミュニティリーダー、ヒアリング	分析のための キーワード
		岩田住宅(10人回答)	金田住宅(22人回答)	NPO 法人 ABT 豊橋ブラジル協会	
外国人コミュニティの実情	外国人（ブラジル人）人口 8,318人、4,162世帯（H24.1 現在）  金田住宅、岩田団地等の公共集合住宅に多く居住しているが、細かなコミュニティは把握していない。	・スポーツ、文化サークルあるが同好会的で組織力はない ・他の外国人に避難を呼びかけることはむずかしい。  ・自治会が積極的に外国人とのコミュニケーションを計ろうとしている。放送、回覧板はポルトガル語併記。		・派遣会社に登録し、豊橋周辺の工場に就業。 ・日本人学校に子供を通わせている人が多い。 ・子供が親の通訳代わりをしている家庭もあるが、難しい言葉になると分からない。 ・外国人の自治会のような、コミュニティは無い。 ・スポーツクラブ、文化クラブ、教会などがある。 ・グループのリーダーになりたがらない人が多いため、その所在を把握することやグループを通じての情報を伝達は難しい。 ・避難する際、自分で何とかしてしまおうとする人が多い ・言葉が分からない、新しく入ってきた人が増え、情報が伝えきれないことが問題となっている。	・組織的なまとまりが希薄 ・常に新住民が移入し日本語の浸透がむずかしい ・子どもを介して日本語にふれることも多いため、難しい日本語は理解されにくい
外国人の日常の情報ツール等		携帯電話の所有率 80.0% パソコン 70.0% インターネットラジオ利用率 10%  TV ニュース（日本語）の理解 60% （回答者は比較的日本語を理解する人が多い。 住民全体の日本語理解率は 30%程度と思われる）		・携帯電話はほとんどの人が持っている ・パソコンでインターネットを利用している人が多い ・パソコンメールよりも携帯メールを使う人が多い ・日本語ができない人はテレビ、ラジオはあまり利用しない、 ・ゴミ出し日を定めたクリーンカレンダーをポルトガル語併記にしたところゴミの住民問題が大幅に解決した。 ・豊橋ブラジル協会からの連絡はインターネットラジオ、チラシ、メールなどで行っている。豊橋ブラジル協会の会員約 140 人のほとんどがメーリングリストに登録し、緊急時はこれを使って連絡する。 ・インターネットラジオには愛知県警や市の広報コーナーがある。 ・一昨年の豊橋ブラジル Day にはラジオの告知、フリーペーパー掲載、チラシ等で全国から 3 万人のブラジル人が集まった。 ・チラシを置いてもらえるようなブラジル系店舗が多く、フリーペーパーや雑誌から情報を得る人もいる。	・携帯電話、パソコンの普及率が高い ・ポルトガル語併記の情報発信は有効 ・非常時にはポルトガル語の双方向情報システムが有効 ・ロコミ情報が伝わりやすいコミュニティ ・市の広報だけではなく、民間店舗の活用も有効
避難計画の周知と理解度	日本語話者と同様の情報提供を目的に 「防災の手引き」「地震防災マップ」をポルトガル語に翻訳。			・協会では避難訓練等の情報は提供していない ・豊橋市からクリーンカレンダーが出されているので、その一角に豊橋ほっとメールの登録方法や避難、暴風警報などの重要単語を記してみるのもよいと思う ・インターネットラジオの番組で防災に関するキーワードを織り交ぜることは可能だと思う。 ・	・情報ツールとして認知度が高いクリーンカレンダーの活用が考えられる
	【防災の手引き】 H23 に印刷。配布を開始。 防災情報を網羅。B5 版 62 ページ。	読んだことがある 12.9% 家にはない、わからない 60.0%  情報量が多すぎる	読んだことがある 0% 家にはない、わからない 94.7%	・字が多すぎるので、まず見る人は少ないだろう。情報配信は簡単なものがよい。	・団地によって差がかなりある ・字が多いとよまれにくい

	【地震防災マップ】 H16に印刷。全戸配布と市民課窓口配布 地震被害、液状化、津波浸水予測。避難地情報地図。A4版39ページ。	読んだことがある40.0% 家にはない、わからない50.0%	読んだことがある9.1% 家にはない、わからない72.7%		
(避難場所の理解度)		避難場所知っている54.6% わからない、知らない45.5%	避難場所知っている78.2% わからない、知らない13.6%		・避難場所を知っている人も多い。
(地震発生時の行動理解)		大地震発生時の対処行動を理解90.0%	同左100%		・対処行動の理解度はたかい
(安否確認方)		家族との連絡方法を殆どの人が決めていない			
(心配事他)		水や食料の確保5人 家族との連絡が取れるか5人 仕事場、学校より、自宅にいて被災したときの方が心配 避難所で日本人と同様に対応してもらえるか不安 逃げるときに日本語がわからなく不安		子供に対しては、大体の学校で言葉が通じる人を配置しているの、いざという時には比較的対処できる。	・水、食料、家族との連絡に不安を持つ人が多い
(防災用語の理解度)		【比較的 understood されている】 震度、津波、東海地震、台風 【比較的 understood されていない】 警報、注意報、避難所、避難勧告、避難指示、災害用伝言ダイヤル		・大人は周りに言葉が通じる人がいないと、分からないままの場合が多い。 ・「警報」の意味も分からない人も多い	・避難時などに良く使う言葉でも理解度が低い
災害情報、避難情報等の発信について	豊橋ほっとめーる(安否確認メール)は現在、日本語のみ。今後、英語、ポルトガル語にも対応予定。  日本語話者向けには緊急情報伝達システム、HPによる情報発信を行う計画である。 ポルトガル語に即時翻訳することが難しく現在は対応困難。	【NTTの災害伝言システム】 知っている40.0% 知らない、未回答50% 【豊橋ほっとメール】 知らなかった90.0% 市のシステムなら登録しても良い100% 【外国人が望む発信方法】 団地内の放送、テレビ、携帯電話、メール、ラジオ 【防災無線】 防災無線なら信用できる	【NTTの災害伝言システム】 知っている73.1% 知らない、未回答36.1%	【豊橋ほっとめーる】 緊急時の情報配信のための登録で、市役所からの指示であれば、ブラジル人は登録してくれる 【インターネットラジオ(Radio Nikkey)】 、東日本大震災の時はテレビのニュース内容をポルトガル語でずっと流していた。ラジオにはチャットも付いており、震災の状況を知りたがる人からのアクセスが殺到した。 【防災無線】 ポルトガル語で流されれば信用してもらえると思う。	・災害伝言システムの認知度は高い ・市ではポルトガル語の即時対応が課題 ・行政への信頼度が高くほっとメール登録に抵抗ない
災害発生時の外国人対応	災害時通訳ボランティア制度に約50人が登録。 外国人集住都市会議に加盟。被災時相互に翻訳等の協力を行う。				
外国人向け防災教育	現在は外国人向けとして特別な対応は行っていない。 文字情報に加え、耳からの情報提供を行うため外国人向けの防災講話を計画している。			【情報伝達の方法】 ・情報配信は簡単なものにして欲しい。 ・必要なキーワード、電話番号などが一目で分かるようなものがよい ・漢字ではなくローマ字の方が読まれる機会は多くなる。 ・文章が多いと読まない。協会でも写真イラストなどを活用 ・日本語をポルトガル語に翻訳するとかなり文字数が多くなる	・文字情報はポルトガル語、ローマ字表記が効果的 ・文字を少なく、写真、イラスト、耳からの情報を利用

## 1) 外国人の生活、コミュニケーション

### ○組織的まとまりが希薄なコミュニティ

豊橋市に居住する外国人の多くは、岩田団地、金田住宅などの公営集合住宅に生活し、派遣会社に登録して近郊の工場に就業し、こどもは日本人が通う近くの学校に通学している。

スポーツや文化サークル、教会などの集まりはあるが「グループのリーダーになりたがらない人が多いためコミュニティの所在を把握することは難しい」(豊橋ブラジル協会)という。また、豊橋市でも細かなコミュニティの所在を把握していない。

## 2) 日常の情報伝達

### ○日本語の情報は伝えにくい

豊橋市では行政情報を伝えるためにポルトガル語の広報、HPなどで日常生活情報を提供している。しかし、日本語でのコミュニケーションは難しい面がある。

その理由として、日本での仕事を求めて、常に日本語がわからない新住民が入ってくる。岩田団地では住民の3割は日本語を概ね理解するが、7割の住民は日本語が出来ない」(岩田団地)という。また、こどもは「こどもは日本の学校に通い、親より早く日本語を覚え、親の通訳となっているが、こどもであるがため難しいことはわからない」(豊橋ブラジル協会)などがあげられる。

### ○ポルトガル語併記の成功例

豊橋市ではかつて外国人がゴミ出し日を間違えて既存住民とトラブルを起こすことがあったが、ゴミ出し日を知らせるクリーンカレンダーをポルトガル語併記にしたところ大幅な改善がみられた。

岩田団地では回覧、団地内放送をポルトガル語併記で行い、コミュニケーションづくりに努めている。

また、「日本語をポルトガル語に翻訳するとき語数が増えるので注意が必要」「ポルトガル語でも文字情報は読みたがらない」、日本語を併記するときも「ローマ字表記のほうが好まれる」(豊橋ブラジル協会)という指摘もある。

## ○高い携帯電話、パソコン普及率

携帯電話は外出先で困ったことが起きたときに対処できるように持ち歩く人が多い。  
パソコンも母国との連絡やポルトガル語情報収集に必要なアイテムであり普及率が高い。  
携帯電話所有率約 80%、パソコン所有率 70%（岩田団地）

## ○その他の情報ツール

テレビ、ラジオはポルトガル語が殆ど流れないため、日本語がわからない人の利用は比較的少ない。

### （ブラジル系の商店とロコミ）

ロコミによる情報伝達も大きいようで、ブラジル系の商店にはポスターやフリーペーパーがよく配置され情報交換の場ともなっている。「一昨年、開催した豊橋ブラジル Day にはラジオの告知だけであったが、ロコミで広がり全国から 3 万人のブラジル人が集まった。」（豊橋ブラジル協会）

### （非常時にはインターネットラジオが効果を発揮）

また、豊橋ブラジル協会が運営しているインターネットラジオは、東日本大震災のときにテレビのニュース内容をポルトガル語でずっと流していた。ラジオにはチャットも付いており、震災の状況を知りたがる人からのアクセスが殺到し、双方向で情報のやり取りをした。

## 2) 市の避難計画の認知度

### ○「防災の手引き」の認知率は低い

「防災の手引き」が配布されていた岩田団地では読んだことがあると回答した人は 12.9%であったが、家にはない、わからない人は 60.0%に及び、情報量が多すぎるという意見は、住民と日常的に情報発信を豊橋ブラジル協会からあった。（金田団地ではアンケート当日に市から配布された）

### ○「地震防災マップ」は住宅コミュニティにより認知率に差

「地震防災マップ」は全戸配布と市民課の窓口配布を行っている資料である。

岩田団地では読んだことがある人が 40.0%、金田住宅では 9.1%。岩田団地では家にはない、わからない人が 50.0%、金田住宅では 72.7%と差がみられた。

岩田団地では団地事務所が自主的に外国人の相談所な役割を担っている他、4 年前にはポルトガル語での防災訓練を行っている。

### ○ 団地に隣接して避難地があるものの認知率が低い

避難場所知っている人は岩田団地が 54.6%、金田住宅が 78.2%であった、両方とも避難地に指定されている中学校、小学校が集合住宅に隣接している。（「地震防災マップ」）

金田住宅のアンケート直前に防災講習が行われたことが影響していることも考えられるが、いずれにせよ、隣接する学校が避難地に指定されている割には認知率が低いといえる。

## ○ 地震時に机の下に頭を隠すなどの本能的情報については認知率が高い

知っているという回答した人は岩田団地 90%、金田住宅 100%。

ブラジル人は「避難する際、自分で何とかしてしまおうとする人が多い」（豊橋ブラジル協会）という意見が裏付けている。

## ○ 防災用語の認知率

【比較的 understood されている】

震度、津波、東海地震、台風

【比較的 understood されていない】、

警報、注意報、避難所、避難勧告、避難指示、災害用伝言ダイヤル

防災行動上、警報、避難所などの用語は重要なキーワードであるが、認知率が低い状況にある。豊橋ブラジル協会では「大人は周りに言葉が通じる人がいないと、分からないままの場合が多い」「警報の意味も分からない人も多い」とこの点を指摘している

## ○ 大規模地震発生時には「食料・水」「家族との連絡」を心配する人が多い。

「食料・水」に関連する「防災の手引き」の記載情報は「12.非常持ち出し品、備蓄品」「32..飲料水兼用耐震性貯水槽」「33.防災備蓄倉庫」の項目立てで施設と場所が文字で紹介されている。「地震防災マップ」には避難所の位置が図示されているが、「食料・水」の関連情報は記載されていない。

日本語の認知率は「備蓄品」が 40.9 ポイント、「非常時持出品」が 45.5 ポイントであった。

「家族との連絡」に関連する「防災の手引き」の記載情報は、「36.災害用伝言ダイヤル利用方法」がある。「地震防災マップ」には記載情報はない。

災害用伝言ダイヤルの認知率は岩田団地が 40.0%。金田住宅が 73.1%であった。

日本語の認知率は災害用伝言ダイヤル 45.5 であった。

## ○ ポルトガル語の緊急防災情報

外国人からは緊急防災情報を下記の方法で発信してほしいと要望されている。

- ② 団地内の放送
- ③ テレビ
- ④ 携帯電話、メール
- ⑤ ラジオ
- ⑥ ポルトガル語緊急連絡

豊橋市では、「豊橋ほっとメール」を開設し、災害時や緊急時に携帯電話やパソコンで災害

情報入手できる日本語サービスを行っているが、現在、英語、ポルトガル語のサービスを計画している。

- (ア)災害時緊急情報（市の災害対策本部が発信する地震、風水害情報。被害状況）
- (イ)災害時緊急メール（登録者に対して上記情報をメールで知らせる）
- (ウ)避難所情報（指定避難所の住所、電話番号、地図）
- (エ)緊急医療機関情報

この豊橋ほっとメールの認知率はポルトガル語サービスが提供されていないこともあって低い。市が災害目的で行うサービスであるなら登録してもよいという人が殆どであった。また、防災無線からポルトガル語で避難情報が流れた場合は、普段から信用できる生活情報がポルトガル語で流れているため、ほとんどの人が信用できると回答している。

以上のことから、外国人への防災情報伝達の課題を次のように整理した。

外国人への防災情報伝達に関する課題
① 外国人コミュニティーは組織力が弱いため、自治会、広報、学校、職場、ブラジル系商店など多様なツールを利用した周知が必要である
② 日本語を習熟していない人の流入が日常的にあるため、ポルトガル語併記（放送含む）での情報伝達が必要である。
③ 外国人は文字が多いと資料を読まない人が多いため、文字数をしぼりイラストや写真の活用、耳からの情報提供が必要である。
④ 外国人は多様な情報ツールを利用しているが、所有率の高い携帯電話、パソコン、及び防災無線、口コミを利用した情報提供が効率的である。非常時には双方向情報システムをもつインターネットラジオも効果を発揮する。
⑤ 防災行動に関連する「避難所」等の防止用語の認知率が低いことから、日本語の最小限の防災用語の普及につとめることがのぞまれる。（クリーンカレンダーや広報の活用など）
⑥ 普段の自治会でのコミュニケーションの取り組みが情報伝達に影響を及ぼしていることから、自治会と行政の連携強化がのぞまれる。
⑦ 「食料・飲料水」「家族との連絡」など外国人が望む防災情報をわかりやすく伝えられていないことから、情報を絞って、イラストなどでわかりやすく伝えることがのぞまれる
⑧ 行政への信頼度が高いことから、豊橋ほっとメールへの登録を促すことが防災情報伝達上効果的である。